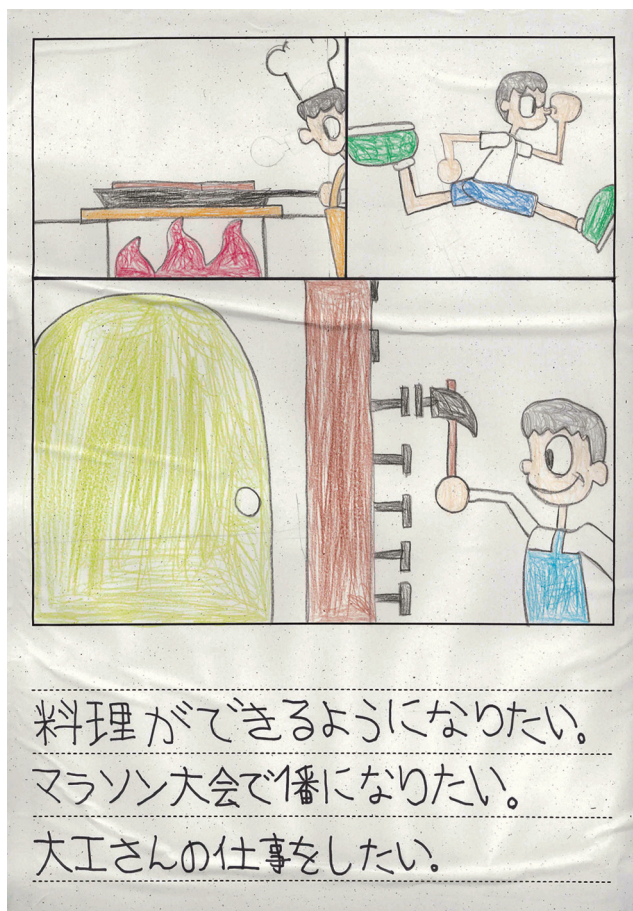


## 第5回埼玉純真短期大学 研究セミナー

### 子どもの気持ちに寄り添う ～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～



**平成27年11月7日(土)**

**会場** 埼玉純真短期大学

**主催** 埼玉純真短期大学

**後援** 埼玉県教育委員会・羽生市教育委員会

行田市教育委員会・加須市教育委員会

熊谷市教育委員会・埼玉県特別支援教育研究会

## 目次

1. 目次	1
2. 発刊のことば	2
3. 開催要項	3
4. 講座	
講座 1	
講師	埼玉純真短期大学特任講師 細田 香織 5
司会	牛込 彰彦
記録	持田 京子 15
講座 2	
講師	埼玉純真短期大学教授 小澤 和恵 18
	発達支援教室ビリーブ代表 加藤 博之 20
司会	安倍 大輔
記録	加藤 房江 23
講座 3	
講師	埼玉純真短期大学准教授 稲垣 馨 26
司会・記録	安村 由希子 28
	丸山 アヤ子
5. 全体会	
実践報告	
発表者	八潮市立大瀬小学校教諭 柳橋 知佳子 30
司会	佐藤 猛
記録	金子 恵美子
講演	
講師	植草学園短期大学教授 佐藤 慎二 41
司会	佐藤 猛
記録	金子 恵美子
7. アンケート報告	佐藤 猛 53
8. あとがき	埼玉純真短期大学教授 伊藤 道雄 59

## 発刊のことば

平成 27 年度第 5 回「特別支援教育・発達障がい研究セミナー」は、教育現場で日々ご努力をされている先生はじめ多くの方々のご参加をいただきまして、無事終えることができ、その報告書が発刊されることとなりました。

本研究セミナー開催のこの時期は秋の行事も多く催され、皆さまには何かとお忙しい中、ご参加いただきましたこと改めて御礼申し上げます。

ご存じのとおり、この研究セミナーは平成 19 年度より 3 年間にわたって、文部科学省委託事業「軽度発達障害の幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム」を引き継いで実施いたしております。

現代は「ノーマライゼーション」や「特別支援」のことばを抜きにして、教育現場でも一般社会でもいかなる活動も生活も考えられません。このような状況の中、この委託事業の内容を継続して、学校教育にあられる先生方や地域の皆さまと共に教育・研究を行い、お互いに理解を深め、少しでも教育現場や地域社会のお役にたてればとの考えで引き続き「特別支援教育・発達障がい研究セミナー」として開催しております。

今回も「埼玉県まなびいプロジェクト」「羽生市学びあい夢プロジェクト」の協賛事業として、埼玉県教育委員会、羽生市・行田市・加須市・熊谷市の各教育委員会、そして埼玉県特別支援教育研究会のご後援で「子どもの思いに寄り添う～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～」と題して開催されましたことは、本学にとりましても喜びにたえないところでございます。

「幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。(特別支援教育の理念平成 19 年 4 月 1 日 文部科学省初等中等教育局長)」とするこの考え方は、まさに教育に携わる者として、共に現代社会に生きる者として、深く心に刻みに教育活動や支援活動にあたらなければならない人間としての教育の本質とも言えるものでしょう。

今回の研究セミナーで基調講演をいただきました佐藤慎二先生。実践報告をしていたいただきました柳橋智佳子先生はじめ、それぞれの講座をご担当いただきました先生、ご指導とご助言を頂戴いたしました先生、ご参加いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

本学のような小さな大学の研究セミナーではございますが、地域に根差したこのような小さなことのひとつひとつの積み重ねで、より多くの方々に「特別支援」への理解と支援の広がりが続いていくことを願ってやみません。

最後に、今大会の運営と本報告書作成にあたって頂きました研究セミナー実行委員長の伊藤道雄先生はじめ運営に携わっていただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

6 回目となる来年、そして再来年と本研究セミナーがさらなる発展を目指して継続されますことをお祈り申し上げ、発刊のご挨拶とさせていただきます。

埼玉純真短期大学  
学長 藤田 利久

埼玉県まなびいプロジェクト協賛事業  
羽生市 学びあい夢プロジェクト事業  
埼玉純真短期大学 第5回特別支援教育・発達障がい研究セミナー開催要項

## 子どもの思いに寄り添う ～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～

日 時 平成27年11月7日(土)  
会 場 埼玉純真短期大学  
主 催 埼玉純真短期大学  
後 援 埼玉県教育委員会・羽生市教育委員会  
行田市教育委員会・加須市教育委員会  
熊谷市教育委員会・埼玉県特別支援教育研究会  
参加者 特別支援教育・発達障がい等に関心のある方

日 程

9:30	10:00～11:30	11:30～13:00	13:00～13:15	13:15～14:00	14:10～16:00
受付	講座(1・2・3)	昼 食	開 会	実践報告	講 演

講演 14:10～16:00

### 「通常学級の「特別」ではない支援教育

#### ～学級経営と授業のユニバーサルデザイン～

佐藤 慎二 植草学園短期大学教授

通常の学級での授業のユニバーサルデザインは、配慮を要する子どもには「ないと困る支援」であり、どの子どもにも「あると便利で・役に立つ支援」を増やします。その結果、全ての子どもの過ごしやすさと学びやすさを高めます。授業のユニバーサルデザインの基本的な考え方と実践上のポイントを具体例を含め分かりやすくお話させていただきます。

実践報告 13:15～14:00

### 「ユニバーサルデザインを生かした授業づくり・学級づくり

#### ～みんなが学級の主役になった～

柳橋 知佳子 八潮市立大瀬小学校教諭

どの子どもも授業に参加し、分かるようにするためには、どのような工夫を行ったらよいか、実践に基づき提案いただきます。



**講座1** 10:00～11:30

**「他者理解(障害理解)と自己理解の一助として**

**～心に響く“絵本の読み聞かせ”の可能性～**

**埼玉純真短期大学特任講師 細田香織**

障がいを描いた絵本の読み聞かせを通して高校生たちが何を思ったか。感想集から読み聞かせの可能性を考えます。

**講座2** 10:00～11:30

**「音楽・音を楽しむ授業づくり」**

**埼玉純真短期大学教授 小澤和恵**

**発達支援教室ビリーブ代表 加藤博之**

音楽は、脳・感情に直接はたらきかけ、ノンバーバルなコミュニケーションが可能です。音楽の効用を考え、気になる子を含む保育・教育現場でできる音楽活動のひと工夫を提案します。ワークショップを通して考えていきましょう。

**講座3** 10:00～11:30

**「合理的配慮を目指す支援とは何か(事例研究)」**

**埼玉純真短期大学准教授 稲垣 馨**

「インクルーシブ教育システムの構築」を目指す中で、今後どのような支援を目指すべきなのでしょう。

具体的な事例を通して必要な支援を考えます。

他者理解（障害理解）と自己理解の一助として  
～心に響く“絵本の読み聞かせ”の可能性～

埼玉純真短期大学特任講師 細田香織先生

「他者理解（障がい理解）と自己理解の一助として」  
～心に響く“絵本の読み聞かせ”の可能性～



アンケート 高校生の感想 から

① 印象に残った絵本はどれですか？ ②なぜ、その本が印象に残っているのですか？

『ありがとう、フォルカー先生』

<考えたこと・感じたこと・受け取ったメッセージについて>

- 1 主人公が LD という障害を持っていたことに、私は最後まで気づけませんでした。本当に頭が悪い子なんだと思っていた自分が情けないです。自分がこの子の立場だったらどうしようと考えさせられました。
- 2 そういうものがあるというのをちゃんと知って、それに対しての本人の気持ち、周りの人（差別的な目で見える人、優しい気持ちの人）の事も知りました。どんな差があっても、人間だし、生きてるし、感情がある事には変わりはないと思いました。
- 3 いろんな人がいるんだなあって思いました。字が書けなくても読めないのもその人のさいのうなんだなあって思いました。
- 4 やはり、人とのコミュニケーションと人と人との絆
- 5 一人一人違うのを認め合っていける世界がいいなと思った。
- 6 この本は、僕に教えてくれたことは一つです。「強く生きる」ことです。人生は強く生きられなくじゃ（ちゃ）いけないということです。
- 7 何か苦手なことがある人も、いろいろな工夫をして頑張れば苦手も解消できるんだというメッセージを感じたから。
- 8 作者自身の体験が元になっているとのことで、読んでみたくなったからです。言葉や文字は気持ちを表すのにとても便利ですが、聞く人・読む人・個人個人に与える印象は違うんだなあと思いました。

<絵本によって知ったことについて（LD、ノーマライゼーション等）>

- 9 LD について触れていたから。
- 10 LD について知り、障害者について理解できたのが印象に残った。
- 11 学習障害について知ることができたのもあるけど、絵がきれいだったので印象に残った。
- 12 世界には色々な人たちがいるという事が、この本でわかりました。

13 ノーマライゼーションとは聞いたことがあっても、実際にはどうなのか知らなかったから勉強になった。

#### <内容に対しての感動、感想など>

14 言葉の苦手な少女を先生が、その苦手をこくふくさせたのが印象に残った。

15 文を読むことのできない女の子が、フォルカー先生に出会って少しずつ読めるようになっていく姿が感動しました。

16 LD についての内容が入っていて、人間のみにくい所を見ることが出来る作品だったので、とても心にしみました。

17 字の本とかが読めなかったけど、頑張って勉強をしていたことが印象に残りました。

18 文字が読めなくても、フォルカー先生のおかげで読めるようになったという話で心が温まった。

19 女の子が字が読めないと言ってわらわれたりしていたのに、最後に学校に行ける事が印象に残りました。

#### <フォルカー先生について>

20 文字が読めない女の子に、さべつすることなく、ほめてあげたり、教えてあげたりしたところがよかったから。

21 フォルカー先生の公平、平等な所が尊敬できた。

22 フォルカー先生の、優しい接し方がよくて感動した。

#### <自分と重ね合わせて>

23 いじめられていた子がむかしの僕に似ていたから。

24 自分とかさねられる部分があったから

25 昔、母に LG (LD) じゃないかと言われたから。

26 私は勉強はあまり好きでもないです。小学校から本をよむのは、とってもにがてでした。でも小5の時はたんにんの先生はいろいろおしえてもらったので本をよむのは好きになりました。

#### <作者と内容に触れて>

27 この本を書いたのが、フォルカー先生に励まされた女の子なのです。その女の子が昔あった出来事や久しぶりにフォルカー先生にあった事をその本に書けた事は凄いなと思いました。

28 本の作者と内容の人が同じと言う裏があって面白かった。

29 子どもの頃は数字も読めなくていじめられていたのにフォルカー先生のおかげで読めるようになり、しかも絵本をつくる会社につとめていてすごいと思ってかんだうした。

30 実際にあった自分のことを書いたと言うところにおどろいたし、とても深い話だったので、印象に残っています。

## 『わたし』

#### <考えたこと・感じたこと・受け取ったメッセージについて>

31 自分という存在を認知する人には様々な観点があり、それが一致する人もいればしな

い人もいて、面白味があった。

32 「私」から見ると「自分」でしかないけれど、他の人から見たら…という考え方がいいなと思った。自分の立場だけでなく、他の人から物事を考えられる人になりたいと思った。

33 「わたし」は、自分という一人のそんざいで、たくさんの人から見たら『わたし』は、いろんなカタチになると思った。

34 わたしの本は、ひとりひとりがそれぞれのかんがえがある。

35 人から見れば、自分はどんな風に見られるかわかったから。

36 その人にとって自分がなんなのか考えることができたから。

37 いろんな人から見て自分はちがうたちばになるんだなあーと思った。

38 いろんなたちばから自分を見ているのがそうだなと思った。

39 大勢の人の中では「一部」だけど、知人からすれば皆大切な「一部」なんだと感じた。

40 絵が気になった。自分は周りからどう見られているのかちょっと気になった。

#### <面白かった点について>

41 絵がすごくおもしろかった。まわりからみた自分というのもおもしろかった。

42 キリンが「チビ」って言ったのがおもしろかった。

43 幼い女の子が、他人と自分を比較するところが面白かった。

44 主人公の呼ばれ方が、人によって違うところがおもしろかった。

#### <深い内容>

45 絵本にしては、本の内容が深いから。

### 『ぼく、どこにでもいるカバです』

#### <考えたこと・感じたこと・受け取ったメッセージについて>

46 障害があっても、ありのままの自分を出すことが大切だと分かったから。

47 人と違うところを気にしてしまいがちだけど、自分らしくいて良いと思えました。

48 人には良いところもあれば悪いところもある。だけど悪いところをふくめて自分だから、悪いところをかくさなくてもいいと思う。

49 聞いたときにいろんなことを気づき、いろんな事がわかりました。

50 カバの感情がわかった。(カバってことが印象に残っている)

51 笑う時に顔に特徴があるけど必死に頑張っているところがいいと思った。

52 笑うと怒った顔になってしまうカバが笑うことをやめたけど、最後に笑っていて、みんなと違って普通なんだと思えたからです。

53 しょうがいをしょうがいと思って、受け入れることがだいじだと思った。

54 個性が強くていいと思う。

55 人は一人一人違うことを考えられたからです。

56 自分は自分という内容が共感したから。深い内容を分かりやすく書いてあったし、絵もかわいかった。

### <深い内容・絵の面白さ>

- 57 おもしろいところや、たいせつなことがかかれてあったから。
- 58 話があさいようで、深かった。
- 59 うれしいとおこった顔になってしまうあのカバの絵がおもしろかった（笑）

### <自分と重ね合わせて>

- 60 自分も同じような病気を持っているから。
- 61 笑顔が怖くになってしまうかばくんは、少し自分と似ていました。誰とも違う自分は、はずかしいことではない事に気づかされ、とても印象に残っています。

## 『やさいのおなか』

### <内容と仕掛けの面白さ・発見>

- 62 この本の仕掛けは、わくの色でやさいがわかるというおもしろい本だったから。
- 63 文があまり書かれていないのに、絵と野菜の色で描かれている作品で、スゴク考えることもできたし、絵本の楽しさが感じられた本だった。
- 64 いつも見慣れている物でも、色によっては全く別の物に見えるのがおもしろかった。
- 65 全部の中でも、一番おもしろかったからです。
- 66 たのしかった（おもしろかったからです）
- 67 おもしろい絵本でした。自分が普段よく食べている野菜でも、ちょっと分からなかったです。また読んでみたいと思いました！
- 68 やさいのおなかがみえたから（やさいのおなかがみれたから）
- 69 野菜のおなかを見ることがなかったなのでこの絵本が印象に残りました。
- 70 本にしかけがあったり、意外に何のやさいかわからなかったから。
- 71 クイズ形式で、すごく楽しかったからです。（3名）
- 72 いろいろな野菜のおなかが分かりました。いろんなおなかが分かりました。
- 73 みんな楽しく絵本にかかれていた野菜の断面図を見て当てたりしたから。
- 74 絵がとてもおもしろくてずっとみてみ（い）たかったです。
- 75 やさいのシルエットが出てきて、見方によって違ったりするところが、印象に残りました。
- 76 いろいろな、やさいの絵の側面のかげがでてきて、おもしろかったからです。
- 77 野菜の断面図みたいな絵のまわりのわくに、その野菜の色がのっていたことが、言われてから気づいたので驚いたから。
- 78 野菜の皮の色が枠になっていて、気づかなかったのでよくできた作品だなと思った。絵本もなめたらあかん。
- 79 日常生活では気にすることのないことを見る事ができた。
- 80 自分がふだん食べている野菜の中が、あんなになっているとは思ってなかった。
- 81 ふかいところがこころにのこります。
- 82 この本を見て、意外と野菜の中を知らなかったことに気づきました。シルエットで楽しく予想して学ぶことができよかったです。

- 83 色んなやさいを当てるのがおもしろかったからです。きゅうりとかさつまいもが形がわからなかったけど楽しかったです。
- 84 なぞなぞみたいでおもしろかったです。
- 85 楽しみ方がいろいろあったから。
- 86 さいしょだから

### 『ねえ、どれがいい？』

#### <他者との違いの面白さ>

- 87 全員答えが違って、面白かったから。
- 88 一人一人の考えがちがっていて、楽しくて、印象に残った。
- 89 自分とは別の考えがあるから。
- 90 人によって違う答えが出るから。

#### <内容の面白さ>

- 91 内容が高校生でも、楽しめる内容だったから。
- 92 ページをめくるたび、おもしろさがふかまり、すごくおもしろかったからです。

### 『さっちゃんのまほうのて』

#### <考えたこと・感じたこと・受け取ったメッセージについて>

- 93 読んでいるのを聞いているときに、お母さんやお父さんの言葉がすごい優しくてあたたかいなと思ったからです。
- 94 生まれつき手の指がないさっちゃんを、はげました両親の言葉がとても印象に残りました。誰にも劣ることのないことなんだ、と言える両親がとてもすばらしいと思いました。
- 95 他の人とは違うという特せいがあるさっちゃんも、小さいながらにして一生懸命考え、そして傷つき、さっちゃんの両親がかけた言葉にとても心を動かされました。
- 96 深いなー。と思った。あ、こんなお母さんとお父さんってすごい。とも思った。

#### <障がい者の気持ち>

- 97 同じ障害の人が知り合いにいて、その人もこんな体験をしたのかと重ねてしまった。
- 98 障害者の人の気持ちなどがよく伝わってきたからです。

#### <以前読んだことがあるが…>

- 99 小学校以来だったけど、今振り返って読んでみると、たくさんの意味がこめられているんだと思った。
- 100 むかしから好きだから。

### 『たまごにいちちゃん』

- 101 タマゴがかわいいから。(2名)
- 102 小さい卵の中にはいっていたのがおどろいた。
- 103 成長したくないところ。



104 からのままだと色々な人に甘えられるし毎日が楽しいと思うから。

105 内容がおもしろかった。

読み聞かせの感想を何でもよいので書いて下さい。

<読み聞かせを終えて、自分が持った意見について>

1 全員違ってそれがいいと思った。

2 とにかくなんでもあきらめないでチャレンジする事が大切です。自分も、あと三年間あるので大事にしたいです。

3 色々な人の価値観を否定するのではなく、相互理解する事のすばらしさを知りました。

<障害について・ノーマライゼーションについて>

4 “ノーマライゼーション”のテーマは私には少し難しかったけれど、本を読んでもらって感じた事を大切にしたい。絵本は小さい頃以来でなつかしいな、という気持ちとこんなメッセージがある物もあるんだ、と知ることができてよかった。

5 今日のおみかせでは、世界にはいろんな、自分のある見方でもちがう見方をする人たちもいるんだなと思った。

6 いろんな絵本をきくことができて良かったです。いろんな障害があるんだと分かりました。絵本きけて、楽しかったです。

7 たくさんある本の中に、それなりのストーリーや一般人に色々な障害を知らせることが出来る作品もいっぱいあったからとてもよかった。

8 本を読むことは、障害を持つ人の気持ちを知ったりすることが重要だと思った。

<読み聞かせ・絵本の良さ、深さについて>

—気づいたら本の世界に入り込み、夢中になっていた—

9 最初はつまらないだろうと思っていましたが、途中からは夢中になっていました。色々なことを知れて良かったです。

10 読むスピードとかちょうどよくて聞きやすかった。最初は、絵本とかバカにしてると思ったけど読み始めたら本の世界に入りこめた。

—絵本の伝え方の良さについて—

11 絵本の読み聞かせはめんどうだと思ってたけど絵本だからと言って馬鹿に出来ないし、勉強になった。絵本の方が素直に言いたい事が伝わるからいいと思った。

12 絵本でその主人公の気持ちをあらわしたり、気持ちを共感できることがとても大切だと思いました。とても良かったです。

13 久々に絵本の面白さを感じた。遠回しにせず、ストレートにメッセージが伝わってくるので強い魅力を感じた。非常に楽しかった。

14 いろんなことやたいせつなことが絵本にかかれてあるとわかった。

—高校生にとっての絵本の魅力—

15 “絵本”は小さい子どもが読むものだと思っていましたが、私たちの年になっても、絵本から学ぶことはとても多くあるんだなと思いました。

16 今、読むのと小さいころ読んだのだとかなりとらえ方が変わる。ながったらしい小説

より、わりといいかも。

- 17 読み聞かせは小学生以来だが、今は「作者の意図」を読み取ることができる。それが何なのか予想することが絵本の本当の楽しみ方だと思う。

#### —高校生でも、大人でも楽しめる—

- 18 高校生でも楽しめる内容でとても勉強になったし、楽しめた。
- 19 絵本はいくつになっても楽しいのは楽しいということがわかりました。こんどまた読んでみたいと思う。
- 20 高校2年で絵本を見るなんて思っていなかったので、久々に見たらおもしろかったです。
- 21 高校生であまり体験しないので、なんか新鮮だった。
- 22 絵本を読んでもらう機会があるなんて思いませんでした。保育園以来だったのですが、高校生でも楽しめるような本を読んでいただいてありがとうございました。
- 23 本は子供や大人にも楽しめる物だと思いました。
- 24 高校生になっても絵本はおもしろいものだと思った。
- 25 私たち高校生に読み聞かせをしてくれるのは、どんな本か楽しみでした。実際も、とても楽しかったです。
- 26 おもしろかった。絵本は小さな子以外も楽しめるんだなと思った。「ねえ、どれがいい？」はオチがいまいちなー？と思った（ゴメンナサイ）
- 27 この中で知っている絵本もありました。大人まで楽しめる絵本があることも分かりました。
- 28 本は元々好きなので、とても楽しかったです。高校生になると、絵本を読んでもらう事があまりないので、小さい頃と違った聞き方ができてしんせんでした。また読み聞かせをして欲しいです。

#### —考えさせられた・知った・教わった—

- 29 たくさんの本を読んでもらい、とても印象に残りました！いろいろな人がいるし、本からいろいろ、おそわった事もありました。
- 30 絵本には、知ってるようで知らないことなどが書いてあることを知れました。楽しかったです。
- 31 いろいろな本でいろいろ考えることもできたし、絵本を久しぶりに見たので、とても楽しかったです。
- 32 とても聞きやすかったです。考えさせられることがたくさんありました。今度読んでみたいなあと思いました。

#### —絵本の奥深さについて—

- 33 絵本の意味深さがすごかった。
- 34 とても聞きやすく、楽しい読み聞かせでした。ひとつひとつの絵本それぞれに深い意味があり、また小さい頃に読んだ絵本を読み直したいと思います。ありがとうございました。
- 35 本のおく深さが分かった読み聞かせでした。

36 絵本がけっこう深いものだとは知りませんでした。絵本の楽しさを知りました。絵本を読んでみたいと思います。

37 絵本の良いところを改めて、考えることができました。

38 とてもふかいものを感じました。本を読んでみたいと思いました。

39 とても深い内容のものがあって驚いた。

40 絵本にはたくさんの意味がこめられてることを学びました。

#### —面白かった・楽しかった—

41 とてもたのしかった。だれでもたのしめると 생각합니다。絵本がこんなおもしろいとは思わなかったです。

42 私は絵本が大好きなので、この授業をずっと楽しみにしていました。そしてとても面白かったです。

43 とてもおもしろくて、楽しくて、いろんなことがわかってうれしいです。

44 4冊どの絵本もおもしろかったです。私は、本を読むのが苦手なので、まず、絵本からたのしく読めるようにしたいです。

45 初めて知る絵本ばかりで楽しかったです。

46 絵本っておもしろいなって思いました。

47 絵本にはいろいろな楽しみ方があった。

48 今日はとても楽しい絵本の読み聞かせありがとうございました。

49 それぞれ個性のある本でおもしろかった。

50 内容がおもしろかったです。

51 絵本もおもしろいと思った。今度かりてみたいと思いました。

52 おもしろかった。(2名)

53 思ったよりおもしろかった・思ったよりもとてもおもしろかった

54 いろんな本があって、ひさびさに読んでもらって楽しかった。

55 どの本も、とてもおもしろかったです。また、聞きたいと思いました。

56 今日は、いろいろな絵本を読んでもらいました。どの本も、とても楽しく聞けてよかったです。とても楽しい時間でした。

57 たのしかったので、また読み聞かせがあればいいと思った。

58 いろいろなことがしてとても楽しかったです。(原文ママ)

59 たのしい本でした。

60 楽しかった。(3名)

61 Very funny!

#### —良かった—

62 いろいろな本があってよかった。

63 よかった

#### —久しぶりの読み聞かせの感想—

64 久しぶりに絵本をよんで、なつかしいなと思いました。絵本はいつ読んでも楽しいんだと思いました。

- 65 久しぶり絵本に触れたけど、昔とはまた違った感じで聞けておもしろかったです。
- 66 ひさしぶりに絵本をみて、おもしろかったです。
- 67 小学校のころにもどった気分で楽しかったです。
- 68 絵本のよみきかせは小学校いらいだったけど、とってもおもしろかった。
- 69 小学校低学年いらいのよみきかせは、いつきいてもいいです。
- 70 久しぶりに読み聞かせを聞いたけど、凄く楽しかった。
- 71 久しぶりに聞いた絵本、初めて聞いたかのように、新鮮であった。
- 72 ひさびさだったのでなかなか楽しめた。
- 73 子供の本を久しぶりに読んでみると、懐かしく感じた。(なつかしいと思った。)

#### <納得がいった・わかりやすかった>

- 74 ゆっくりと読んでくれたので、どんな本なのかどんな事を言いたいのかわかりやすかった。
- 75 納得出来る話を聞くことが出来ました。
- 76 昨日は色々と本を読んで、色々とわかりました。
- 77 すごくわかりやすくて、とてもよかったです。
- 78 とてもわかりやすかったです。

#### <特定の本についての感想・印象に残った本>

- 79 「やさいのおなか」が一番印象に残ったけど、「ありがとうフォルカー先生」も印象に残った。フォルカー先生まじかっけえ！！
- 80 特にフォルカー先生の優しい所を見習いたいと思いました。
- 81 やさいのなががいちばんいんしょうにのこりました。
- 82 おもしろくて、すごい話だと思いました。ありがとう、フォルカー先生、わたし、83 ぼくどこにでもいるカバです がいちばんきにいったのでまた聞きたいです。
- 84 カバがいい
- 85 5冊も見て、全部印象に残りました。

#### <また聞きたい・読みたい・読んであげたい>

- 86 読み聞かせの大切さがよくわかりました。私も小さな子にたくさん本を読んであげたいです。
- 87 私の将来の夢は保育士になることです。読み聞かせを通して小さい子に楽しんでもらえるような本の読み方を学べてよかったです。
- 88 中学から絵本を読んでなかったから、もっといろんな絵本を読みたいと思いました。色んな絵本がみれてよかったです。
- 89 絵本なんてふだん全く読まないけど、読んでみたいなあと思った。
- 90 また、読んでほしい。

#### <貴重な時間>

- 91 絵本と向き合う機会が少ないので、貴重な時間でした。
- 92 少し眠たくなったけど、貴重な時間になったなと思った。

### <声・読み方について>

- 93 とてまたのしくきくことができた。先生の声がとてもきれいでよく聞こえました。
- 94 読むのがすごく上手で、一文一文で感情がこもっていていいと思いました。
- 95 とてわかりやすく読んでくれて、楽しかった。
- 96 とて聞きやすい声で、どのお話もよく理解できたような気がします。
- 97 読んでいた先生の気持ちが伝わってきた。
- 98 とて聞きやすい読み方だったので聞いていて楽しかったです。
- 99 声が、とてもききやすかったです。
- 100 聞きやすかったです。
- 101 声がすごく心地よかった。
- 102 聞きやすい話し方だった。
- 103 聞きやすかった。
- 104 良い声で、読み方もよかったと思います。
- 105 本の絵は、私の目が悪いのと、前にいる人たちの頭で、よく見えませんでした。読んで下さった先生のとてやさしい声や、感情が伝わってくるような話し方（読み方）などがとてここちよかったです。
- 106 声も聴きやすくて、感情をこめて読んでいて聞いてて楽しかった。
- 107 声がうつくしかつたのでききやすかつたです。
- 108 声がとてきれいでリラックスできた。
- 109 きれいな声でした。
- 110 細田先生の声がきれいでした！ねむくなりました。またぜひ読み聞かせを聞きたいと思ひました。
- 111 先生の本を読むスピードがとてなつかしかつた。

### <感動した・感情移入した>

- 112 聞いてて感動した。いろいろ読んでみたいと思つた。
- 113 優しくてあたたかみのある声と雰囲気があつて、聞きやすかつたです。途中涙を浮かべているような時があつて、それも含めて感動しました。絵本への思ひも感じました。ありがとうございます。
- 114 先生のお話はとて分かりやすく、聞きやすくて楽しかつたです。とて感情移入しやすくて感動しました。
- 115 声がきれいでつたので聞いていたらねむくなつた。読んでくれた本、全部おもしろさと感動がありました。

### <眠かつた・よくわからなかつた>

- 116 楽しかつたけど、ねむい、、ZZZ
- 117 久しぶりに読み聞かせをきいたけど、寝てて集中どころか、ちゃんと聞けなかつた。機会があればまた聞いてみたいです。
- 118 よくわからなかつたです。
- 119 ねむいです。

## 講座 1

### 「記録」

#### 他者理解（障害理解）と自己理解の一助として ～心に響く“絵本の読み聞かせ”の可能性～

埼玉純真短期大学特任講師 細田香織先生

以前、細田先生は本学の『学び直しニーズプログラム』において「障害理解」の一助として、絵本の読み聞かせを通して、絵本から学べる、という講義を行いました。今回は「他者理解と自己理解の一助として～心に響く絵本の可能性～」というテーマで、絵本の読み聞かせを受けた高校生の感想から、絵本を聞くことで、高校生が自己理解、他者理解、自己肯定感などを感じることができるといってお話を頂きました。講座は実際に先生の「ありがとう、フォルカー先生」の読み聞かせもあり、先生のご経験や絵本の紹介などを交えた温かい雰囲気の中で終了致しました。その模様を紹介致します。

初めに行った参加者の方々の自己紹介では、少人数だったため現場のことや質問などのたくさんのお話を頂きました。（受講者 10 名＋本学学生）

#### 1、なぜ絵本の読み聞かせなのか

現代の高校生は、ほとんどが携帯電話を所有していて、幼いころから様々なメディアに囲まれて生活していて、人の「生の声」で語られる体験は乏しい現実がある。読み聞かせのスタイルは人の声の温もりや心地よさを知り、感情の共有や交流が起こり、他者への関心が高まる可能性を有していて、高校生には得難い「場」と言える。絵本はユニバーサルデザインの 3 要素の「視覚化」「共有化」「焦点化」を含んだ活動でもあり、読み聞かせという「場」を用いて全員とはいかなくても、数人でも心に残って生きる心の糧となってくれたらと願っている。そして、絵本を読むときに、読み手はできるだけ一人ひとりに視線を投げかけ、「あなたに」という気持ちで物語ることや、人数に気を付ける（大勢すぎるのは、声や気持ちが届かない）ことがとても大切なのである。

また先生が気にされたことは、障害に関する絵本を読むことで、不登校、肢体不自由なこと、いじめ等の場面などがフラッシュバックしないか、心配があったそうですが、そういうことはなかったそうです。

#### 2、期待しすぎないこと

絵本の読み聞かせにおいては、期待しすぎないことが大切であり、何かの課題を立てると、それに特化した学習を行うことになりがちであるため、学習課題を立てるのではなく「それぞれが感じたことをそのまま尊重すること」が一番大切であり、物語を通して、一人ひとりがそれぞれに内容を感じ取ることに意味がある。



### 3、読み聞かせ後の読み手の発言についての配慮

読み聞かせには読み手が大きく関わってくるため、読み手の何気ない発言、配慮を欠いた発言が、広がりを持っていたはずの物語を狭めてしまったり、もっと悪い場合には物語の趣旨を全く曲げて、偏見を生み出すこともある。

○『さっちゃんのまほうのて』の読後に「さっちゃんにはどうして手がないの？」と子どもに聞かれた場合、どう答えるか、というアンケートの問いに対して、保育学生が「神様がいじわるしたから」「悪魔が持って行ったのかな？」「虫が食べたから」と答えたり、現場の保育士さんが、読んだ後に「みんなも手をきちんと使わないとさっちゃんみたいになるよ」と子どもに言うとの回答もあったそうです。

絵本はメッセージ性が強いものなので、偏見を生み出すなど、読み手が気を付けるべきことがたくさんある。読み手の「誘導」はいらず、ただ読んで、子どもが感じることを尊重すべきであり、読み手が主人公の気持ちにのせて読み、子どもが思いのままに感じ取るといった配慮が必要である、と話されました。

### 4、絵本の紹介と、細田先生による絵本の読み聞かせ「ありがとう、フォルカー先生」

- ①「やさいのおなか」きうちかつ 福音館書店、1997
- ②「わたし」谷川俊太郎 長新太 福音館書店、1976
- ③「ぼく、どこにでもいるカバです」みやざきひろかず BL 出版 1988
- ④「さっちゃんのまほうのて」たばたせいいち 偕成社、1985
- ⑤「たまごにいちやんぐみ」あきやまただし 鈴木出版、2006
- ⑥「ありがとう、フォルカー先生」パトリシア ポラッコ・訳 香咲弥須子 岩崎書店、2001

### 5、高校生の感想の紹介

実際に高校の生徒さん達を書いた感想を紹介され、高校生自身が、自分と主人公を重ね合わせることから、自己理解や自己肯定感、そして自分の立場だけでなく障害を持つ子への他者理解、さらに相互理解の素晴らしさなどを感じていたことを伝えて頂きました。

### 6、講座で出た質問に対する回答

#### ①泣き顔の入った絵本を受け入れられない子どもは？

○受け入れられるときに読む。その子の時期に読めばよい。安心の繰り返しでいつか受け入れられる日が来る。

#### ②0, 1歳の反応がないお子さん。

○ふれあいをしながら読むことが良い。あかちゃんの絵本などは日常生活が入っている。絵本への興味もふれあいと生活の中で育つもの。抱っこするなど読むなどによって、徐々に注目できるようになる。

#### ③集団の中で抱っこしながらなどの1人一人との触れ合いが難しい。

○読み聞かせの機会が減っているので、保護者の絵本への興味・関心を育てられるとよ

- い。園が絵本の貸し出しをして、家庭で読み聞かせなどの機会を増やすこともよい。
- ④毎日時間がない。《縦割りなので（小さい4人・小学校・中学校）》の部屋割りである。
- 読む機会を確保の為、その時間を決める。○学年ごとに順番や時間を決めるなどもよい。

#### まとめ

多様な文化がある昨今、参加者の中には「絵本」に対する見方が変わった方もいらっしゃるようでした。子どもと日々相對して過ごす私たちの現場には、「絵本」を通してたくさんの可能性があることに気付かされたと同時に、絵本を持つ読み手の存在の大切さにも改めて気づくことが出来ました。


（文責 埼玉純真短期大学 持田京子）

音楽・音を楽しむ授業づくり

埼玉純真短期大学教授 小澤和恵先生  
発達支援教室ビリーブ代表 加藤博之先生

研究セミナー 講座2  
「音楽・音を楽しむ授業づくり」  
2015.11.07


<講義編>  
音楽活動を考える  
—音楽の効用の視点から—



埼玉純真短期大学  
小澤和恵

♪ 音楽活動の種類 ♪


- 「歌う」(歌唱)
- 「弾く」(演奏)
- 「聴く」(鑑賞)
- 「作る」(作曲)
- 「動く」(身体活動)
- 総合的な活動



♪ 音楽活動の目的 ♪

- (芸術)としての音楽
  - ・美の追求
  - ・自己表現活動
- (文化)としての音楽
  - ・伝統、芸能
  - ・娯楽、趣味
- (教育)としての音楽
  - ・音楽を通しての人間教育
- (音楽療法)としての音楽
  - 音楽の機能を活用し、
  - 対象者の心身の健康の維持、回復、
  - 生活の向上を図る

♪ 保育・教育における  
音楽活動の展開において ♪



音楽の効用という視点から  
音楽活動の意味や方法を  
考えることはとても大切

♪ 音楽とは・・・ ♪

「もし、音楽に託されていることを  
すべて言葉で伝えることができるなら、  
音楽というものはなくてもよいし、また  
私たちは音楽を求めるともないだろう。」

byガストン  
(音楽療法の基礎を築いたアメリカ教育学者)

音楽は  
感情や意志を伝えるための  
言語を超えた表現手段

それは  
音・音楽は  
直接 脳にはたらきかけ  
心身に影響をあたえるから

## ♪ 音楽の効用 ♪

### 1) 身体的機能の発達、向上

#### 粗大運動能力

(音楽に合わせて歩く、動くなど四肢運動)



#### 微細運動能力

(楽器をたたく、こする、ふる、握るなど)



### 2) 諸感覚機能の発達、向上

#### ☞ 五感の中で……

① 聴覚(音を聴く)

② 視覚(楽器を見る)

③ 触覚(楽器に触れる)

#### ☞ 五感以外の感覚

① 前庭感覚

(体をゆするなどのバランス感覚)

② 固有感覚

(関節や骨節などの感覚)

さまざまな感覚を刺激する。

注: 障害のある子どもに、感覚過敏症や

ある刺激を固執して好む場合もある

### 3) 認知的機能の発達、向上

- ・ 楽器の選択
- ・ 音の高低や強弱や速度等の識別
- ・ 模倣や記憶

音や音楽への注意力や集中力が  
認知能力を高める。

### 4) 情緒的機能への効果

- ・ 様々な感情の誘発
- ・ 内に鬱積していた感情の発散
- ・ 感情の高揚や鎮静
- ・ 充足感と自尊感情の獲得

さまざまな感情へのはたらきかけがある。

### 5) 社会的機能の発達、向上

- ・ 他者の演奏を聴いたり演奏する姿を見る
- ・ 他者の前で演じる
- ・ 他者と一緒に演奏したり共に踊ったりする
- ・ 自分の出番を待つ、役割を果す

他者と共有することによって、  
自己意識や他者意識を深め、  
協調性や社会的適応力が発達

## 『音楽・音を楽しむ授業づくり』

2015年11月 7日(土)

発達支援教室ビリーブ

文教大学 加藤 博之

### 1. 子どもを惹きつける音楽活動を考える

- ①豊かに表現する
- ②即興を大切にする
- ③遊び心を大切にする
- ④アセスメントを大切にする
- ⑤評価を大切にする

### 2. 実際の音楽活動を視聴する

- ◎VTR (音楽療法の場面)
  - ①グループセッション1 (コンガのやりとり)
  - ②グループセッション2 (リトミック)

### 3. 自ら魅力的に実演する

#### (1) 手遊びをしよう(2人組)

- ◎アルプス一万尺
- ◎あっちむいてホイ

<ねらい> 身体への気づき、ボディイメージの高まり、動作模倣、即時模倣  
両手の協応、音楽と動きの一体化、リズムに合わせる力の獲得  
人に合わせる力、コミュニケーション能力、イメージする力、遊びの創造

#### (2) 身体を動かそう

- ◎リトミック
- ◎オオカミなんかこわくない(即時反応)

<ねらい> 情動の発散、ボディイメージ、いろいろな動きの獲得、協応動作、即時反  
応適応力、自己コントロール、音楽と動きの一体化、身体への受け入れ  
人への意識の高まり

◎輪になって踊ろう（集団遊び）

<ねらい>音楽と動きの一体化、人への意識の高まり、身体への受け入れ  
人に合わせる力、社会性

### （３）楽器で遊ぼう

◎楽器がだんだん増えていく（音の重なり合いを楽しむ）

（タンバリン、カスタネット、トライアングル、ウッドブロック、鈴など）

<ねらい>情動の発散、音色の違いへの意識、感覚受容（触覚受容、固有感覚の受容）  
楽器の操作性（バチで叩く、手をすべらす、はじく、握る、など）  
音楽と動きの一体化、曲想に合わせる力、順番の意識  
他者への意識（仲間が増えていくことの楽しさ）

◎合奏（「風になりたい」）

<ねらい>いろいろな音や楽器への興味、テンポ、リズムへの意識と同期  
曲想に合わせて表現する力、情動の発散、みんなで一緒に音を出す一体感

### ※参考 『風になりたい』の活動の特徴

- ① みんなが演奏し集団のエネルギーが渦巻く中で、思う存分楽器を演奏できる
- ② 毎回いろいろな種類の楽器を選べる
- ③ 固有感覚（竹、金属楽器など）や際立った音の受容（途中の笛やアゴゴベルなど）  
など、感覚に訴える楽器が多い
- ④ リズムの種類が多く、自分の好きなリズムを奏でることができる
- ⑤ 中間部の掛け合いのおもしろさを味わうことができる

### （４）歌を歌おう

◎歌①「グッディグッバイ」

<ねらい>歌への興味（歌いかけの受け入れ）、情緒の安定、歌への嗜好性  
表現力、聴覚記憶、発声・発語の促進、一体感

#### <グッディグッバイ>

あなたと会えて ほんとはよかった  
やさしい心 ありがとう やさしい心 ありがとう  
グッデー グッバイ グッデー グッバイ マイ フレンド



◎歌②『さようならの歌』

<ねらい>活動の始まりや終わりの意識、繰り返しによる安心感、名前の意識  
呼名に応じることによるコミュニケーション活動、周りの人との一体感  
信頼関係の深まり

さよなら ○○ちゃん さよなら ○○ちゃん さよなら ○○ちゃん  
さようなら

※参考文献

- 『子どもの豊かな世界と音楽療法 ー障害児の遊び&コミュニケーションー』  
(加藤博之、明治図書)
- 『子どもの世界をよみとく音楽療法ー特別支援教育の発達の視点を踏まえてー』  
(加藤博之、明治図書)
- 『音楽療法士になろう!』 (加藤博之・藤江美香、青弓社)
- 『障がい児の子育てサポート法』 (加藤博之・藤江美香、青弓社)
- 『発達の遅れと育ちサポートプログラム ー子どもの世界が広がる遊び63ー』  
(加藤博之、明治図書)

## 講座 2

### 「記録」

## 音楽・音を楽しむ授業づくり

埼玉純真短期大学教授 小澤和恵先生  
発達支援教室ビリーブ代表 加藤博之先生

講座 2 は、「音楽・音を楽しむ授業づくり」というテーマで、〈講義編〉では理論的に、〈実践編〉では体験的に学ぶ講座になっていた。

### 〈講義編〉音楽の効用の視点から音楽活動を考える

埼玉純真短期大学教授 小澤和恵先生

保育・教育において音楽を展開するうえで、音楽の効用という視点から、活動を考えることは重要である。

まず、音楽活動の種類をあげた。「歌う」歌唄・「弾く」演奏・「聴く」鑑賞・「作る」作曲・「動く」身体活動・総合的な活動（歌いながら、又は楽器を聞きながら身体を動かすなど）がある。

音楽活動の目的は、人間としての内面の充実や教育的においても、さまざまなものがある。芸術としての音楽においては、美の追求や自己表現活動。文化としての音楽においては、伝統、芸能、娯楽、趣味。教育としての音楽においては、音楽を通しての人間教育。音楽療法としての音楽においては、音楽の機能を活用し、対象の心身の健康の維持、回復、生活の向上を図る。

保育、教育における音楽活動の展開において、音楽の効用という視点から音楽活動の意味や方法を考えることはとても大切である。音楽とは、「もし、音楽に託されていることをすべて言葉で伝えることができるなら、音楽というものはなくてもよいし、また、私たちは音楽を求めることもないだろう。」音楽療法の基礎を築いたアメリカの教育学者のガストンの言葉にもあるように、言葉を越えたノンバーバルなコミュニケーションが可能である。それは、音・音楽は直接 脳はたらきかけ心身に影響を与えるからである。

音楽活動は生活の向上を図り、支援の意味も含まれる。音楽にはどのような効用があるのか。

- ①身体的機能の発達・向上においては、粗大運動能力（音楽に合わせて歩く、動くなど四肢運動）や微細運動能力（楽器をたたく、こする、ふる、握るなど）がある。
- ②諸感覚機能の発達・向上において五感の中では、聴覚（音を聴く）、視覚（楽器を見る）、触覚（楽器に触れる）などがある。五感以外の感覚においては、前庭感覚（体をゆするなどのバランス感覚）や固有感覚（関節や骨格などの感覚）などのさまざまな感覚を刺激する。障害を抱える子どもの中には、感覚過敏症やある刺激を固執して好む場合もある。場合によっては、それを利用し、こだわりから解き放つこともある。体をゆするな

どバランス感覚は、会場にてピアノ曲に合わせて体感し、実践を行った。

- ③認知的機能の発達・向上においては、楽器の選択、音の高低や強弱や速度等の識別、模倣の記憶があり、音や音楽への注意力や集中力が認知能力を高める効果がある。また、楽器の選択では、好きな楽器を自分で選ぶということが良い。
- ④情緒的機能への効果では、様々な感情の誘発、内に鬱積していた感情の発散、感情の高揚や鎮静、充足感と自尊感情の獲得など、さまざまな感情へのはたらきかけがある。
- ⑤社会的機能の発達・向上においては、他者の演奏を聴いたり演奏する姿を見たり、他者の前で演じることや他者と一緒に演奏したり共に踊ったりすること。また、自分の出番を待つこと、役割を果たすことなどがある。他者と共有することによって、自己意識や他者意識を深め、協調性や社会的適応力が発達するなどの効果がある。

## <実践編>音楽・音を楽しむ授業づくり

発達支援教室ビリーブ代表 加藤博之先生

音楽は健常児にとっても、発達障害を抱える子どもにとっても、とても有効である。また、強制でないことがよいし、導入しやすい。反面、收拾がつかなくなるという面もある。失敗してもいいし、また、先生が楽しんで演奏することも大切であり、一緒に楽しむことで音楽との一体感や心地よさを学べる。

- ・子どもを惹きつける音楽活動を考えることには、以下の⑤つがある。
  - ①豊かに表現する。
  - ②即興を大切にする。
  - ③遊び心を大切にする。これは、ユーモアを大切にすることであり、ユーモアが分かる子どもは、将来に違いがでてくる。ギャグが分かるということは、知的に高くなるので、友達ができる。
  - ④アセスメントを大切にする。学校の先生の知識の他にも音楽療法の知識が必要である。模倣しない子は、真似をさせるのではなく見守る。この人と一緒にやりたいという気持ちが大切。相手と同じ動きをしたいという気持ちが模倣に繋がる。感覚には優先順位があるので、聞きながら動かすことは難しいことである。耳で聞いている場合もある。
  - ⑤評価を大切にする。ただ、楽しかった、頑張っただけでは、評価でなく、感想である。この子にとって何のプラスになったかを説明できないと保護者には納得してもらえない。
- ・実際のセッションを視聴する。(音楽療法の場面をVTR視聴しながら学ぶ。)
  - ①グループセッション1 (コンガのやりとり)  
先生がコンガをリズムカルに叩き、子ども達を誘う。子ども達も自分の気持ちをコンガを叩くことで表現し、答えている。交互のやり取りを大切にすることで、私とあなたとのやりとりを体験し、コミュニケーションは楽しいんだということを感じる。
  - ②グループセッション2 (リトミック)  
笛のセッションにより音を刻む。この楽器はこうあるべきという解答を作らないほうが

よい。より良い音を出す、聴くというプロセスを大切にする。

- ・自ら魅力的に実演する・・・手遊びをしよう（2人組）

『アルプス一万尺』障害のある子にとって、この動きは難しいので、簡単にアレンジして創作してみる。

『あっちむいてホイ』キレル子にも有効。負けてもまたすぐ勝てる。

ボディイメージが弱い子もいるので、違う活動で勝負する。音楽活動は種類も豊富なので、とても有利である。

- ・身体を動かそう

『リトミック』『オオカミなんかこわくない』

ゆっくり歩くことが大切であり、また難しい。その子のペースで歩く。

情緒が安定しているということは、表現が柔らかくなる。この柔らかいことが大切であり、その逆だと硬さがでてしまう。

自閉症の子は対人関係が苦手と言われているが、点ではかかわれる。一つの例として、徐所に近づき自分を少しずつ意識させる。そのままの体勢でしばらく過ごす。手の甲で軽くタッチする。その後、自閉症の子のほうから、かかわりを持ってきた場合もある。自閉症の子のかかわる活動はその子に合わせて創っていくことが大切。

- ・楽器で遊ぼう。それぞれ好きな楽器を選び、音の重なりを楽しみながら合奏を体験する。

『合奏（風になりたい）』いろいろな音や楽器を奏でながら、合奏を楽しみ、みんなで一緒に音をだす一体感を感じる。合奏が楽しめるのは、社会性が育っている証拠であり、それは楽しいと感ずることである。

- ・歌を歌おう

『グッデイグッバイ』ピアノの伴奏に合わせてみんなで合唱を行う。


音楽は沈黙に始まり沈黙に終わる。最後に静かになり、情緒的に安定できたことで、周りの人と一体感を共有できる。

（文責 埼玉純真短期大学 加藤房江）

合理的配慮を目指す支援とは何か（事例研究）

埼玉純真短期大学准教授 稲垣馨先生


第3分科会 事例研究  
「合理的配慮を目指す支援とは何か」



合理的配慮と環境整備について  
（文科省 初等中等教育分科会 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）平成24年7月より）

🎧 「合理的配慮」は、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるもの

🎧 それぞれの学びの場における「基礎的環境整備」の状況により、提供される「合理的配慮」は異なる



合理的配慮と基礎的環境整備の関係

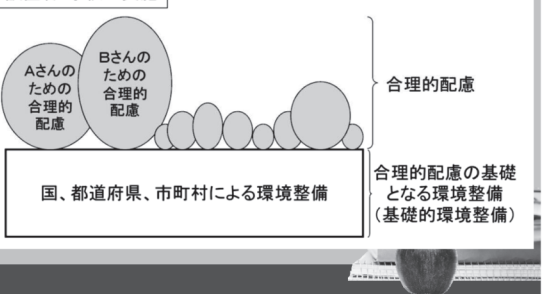
設置者・学校が実施

Aさんのための合理的配慮  
Bさんのための合理的配慮

合理的配慮

国、都道府県、市町村による環境整備

合理的配慮の基礎となる環境整備（基礎的環境整備）



個別に必要な合理的配慮

Aさんのための合理的配慮

① 教育内容・方法  
授業  
教育内容  
・学習上又は生活上の困難を改善・克服  
・学習内容の変更・調整

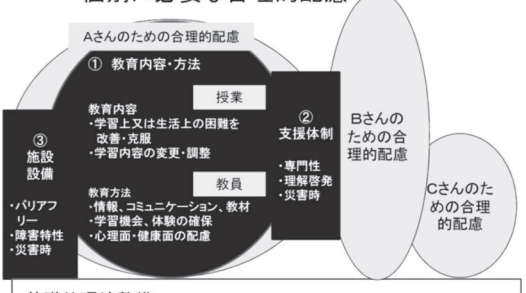
② 支援体制  
Bさんのための合理的配慮  
Cさんのための合理的配慮

③ 施設設備  
Cさんのための合理的配慮  
・専門性  
・理解啓発  
・災害時

教育方法  
・情報、コミュニケーション、教材  
・学習機会、体験の確保  
・心理面・健康面の配慮

・バリアフリー  
・障害特性  
・災害時

基礎的環境整備（Aさん、Bさん、C、D、E……不特定多数の児童生徒を視野）  
特別支援学校・学級は、対象としている障害の特性を踏まえた学校環境となっている。




🎧 条件

○設置者及び学校と本人及び保護者の間で、可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供されることが望ましい ⇒ 良好な関係性の構築・維持

○各学校の設置者及び学校は、興味・関心、学習上又は生活上の困難、健康状態等の当該幼児児童生徒の状態把握を行う必要がある

○発達の段階を考慮する

○内容を個別の教育支援計画に明記する。個別の指導計画にも活用される



🎧 留意点


○「合理的配慮」の決定は、設置者や学校が体制面、財政面をも勘案し、「均衡を失した」又は「過度の」負担について、個別に判断する。

○設置者及び学校と本人及び保護者の意見が一致しない場合には、第三者機関により、解決を図ることが望ましい。

🎧 手続き


①必要とされている「合理的配慮」は何か  
②提供の必要性について優先順位を付ける  
③共通理解を図る⇒家庭・学校・地域

する



👉 柔軟性を持つ「合理的配慮」—子どもの状況に合わせて、常に見直しを行う


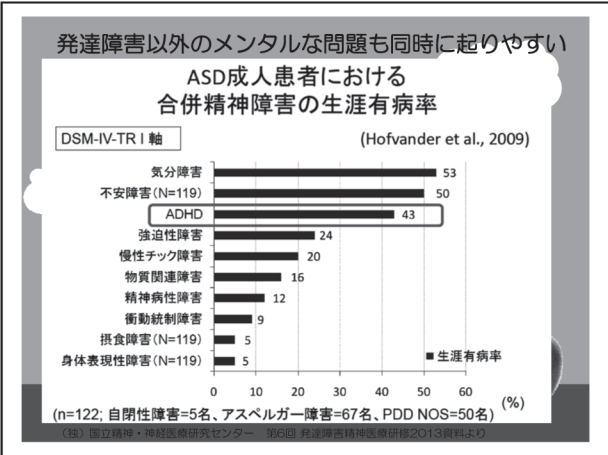
1. 見直し可能な計画  
発達や適応の状況等により、柔軟に見直し
2. 支援の連続性が前提  
「合理的配慮」に関する引き継ぎ、情報交換が可能なシステムづくり
3. 「合理的配慮」を見直せる体制づくり  
定期的な教育相談や個別の教育支援計画に基づく関係者による会議等の実施による体制づくり



👉 必要な視点 ライフステージを通じた支援


障害特性の重症度よりも、合併症や二次障害としての精神障害の合併等が付加していることの方が影響が大きいという報告が多くなされている。

➔ 二次障害は本人が自主的に作り出すのではない。周囲の無理解や本人の失敗体験の積み重ねの結果である。

👉 児童期に発達障害と診断された長期予後

- ASDは診断継続、症状は軽減傾向
- ADHDは診断からはずれる場合もある。症状は軽減しながらも持続
- 社会適応水準は症状軽減とは逆に低下 (Howlin et al., 2013)
- 予後関連因子は
  - ① 早期の対人領域の機能 (Howlin et al., 2013)
  - ② 早期支援の有無
  - ③ 児童期及び成人期の合併精神障害の有無 (Kamio et al., 2013; Yan et al., 2013)



(注) 国立精神・神経医療研究センター 第6回 発達障害精神医療研修2013資料より


例) 4歳児 自閉症

自閉症特性のみの把握ではなく、多面的な把握が必要

ADHD傾向、不器用さ、学習障害、てんかん、知的障害、言葉の遅れなどの合併はないか

+


適応的な状況を維持できる本人側の要因 (性格傾向など) と環境面の要因を把握



👉 現状1：多様な教育リソース (資源) に対するアクセシビリティの担保が求められる

○必要な支援に関するアクセシビリティ (サービスなどを支障なく利用できる度合い) とは

- ① 視覚情報や音声情報に関わる情報アクセシビリティ
- ② 介助や移動円滑化などの物理的アクセシビリティ
- ③ 社会的スキルに関するケア
- ④ 言語や制度に関わるケア
- ⑤ 医療的なケア
- ⑥ 精神的なケア
- ⑦ やキャリア支援など




👉 現状2：支援ニーズは、流動化、高度化、多様化・ボーダーレス化

しかし、実際にはさまざまな限界がある


予算  
物的・人的資源  
知識や経験 など

➔ 対応できる合理的配慮にも限界  
あらゆる地域資源、他の教育機関との連携により、「過度な負担なく可能な合理的配慮支援」の選択肢を増やしていくことが必要



👉 合理的配慮を目指す支援者の「支援の限界」

- ★ 「支援」はプラスの、完璧なものを、常に提供し続けるという発想に縛られない。  
= 自分自身で限界を作らない
- ★ 発達障害の支援は、「これが正解」というものはない。環境×子どもの特性×関係性が影響する。
- ★ 無計画な「行き当たりばったり」は困るが、卒にとらわれない自由な発想で、時には「とりあえずその場しのぎ、問題先送り」でもいいこともある。  
= 支援者が限界にならない。明日につながる支援を目指す。





### 講座 3

#### 「記録」

## 事例研究「合理的配慮を目指す支援とは何か」

埼玉純真短期大学准教授 稲垣馨先生

事例発表者：坪井千代子（北川辺西小学校）

長澤誠（県立総合教育センター指導主事）

#### 【流れ】

1. 10時～10時5分：6グループに分かれて自己紹介（各グループは4～6人）

2. 10時5分～10時20分：事例の紹介

《事例1》 学級担任である坪井先生のご発表

- ・小学2年生の男児、特別支援学級在籍
- ・自閉症スペクトラム障害、ADHDの診断。IQは境界域
- ・担任のほか、他の学級担任、管理職、3名の介助員が関わっている。  
その他、外部から指導者を招き助言も受けているが、突発的・衝動的な動きがあり、安全面を確保することが難しい。職員のけがも発生している。同級生のずぼんを下す、先生の胸を触るなど、性的ないたずらも出てきている。
- ・パニックになった時は、母にも来校してもらっている。

※今回検討したいこと：指導力の向上、校内指導体制の構築

《事例2》 教育委員会担当者である長澤先生のご発表

- ・過去受け持った事例
- ・5年生男児、視野狭窄がある、初めてのことは不安、運動面苦手
- ・おおむね学年相当の理解
- ・友達関係良好
- ・通常学級在籍

※今回検討したいこと：市教委の役割

3. 10時20分～11時：各グループで事例検討

4. 11時～11時30分：発表

《参加者から出された意見》

親の無理解が症状の悪化につながる、就学前から追跡する必要性、振り返りの大切さ、負け方・終わり方の経験も必要、無理なく教員も合理的配慮ができるように、家庭との連携や医療（療育施設）との連携が大切、教員同士の連携、研究・勉強の大切さ、知的能力に見合った活動の組み立てと見直し、適切な環境づくり、パニックの原因の特定、日常生での把握、クールダウン時の約束事

5. 11時30分～11時40分：まとめ（稲垣先生）

- ・ライフステージを通じた支援の大切さ
- ・成人期の2次障害の併発（約50%）
- ・昔からやっていることは変わらない。過度な負担なく、いろいろな所と連携しながら支援者がきつくないように。

（文責 埼玉純真短期大学 安村由希子）

## ユニバーサルデザインを生かした授業づくり・学級づくり

八潮市立大瀬小学校教諭 柳橋知佳子先生

ユニバーサルデザインとは、特別な支援を要する児童にはないと困る支援であり、どの児童にも便利で役立つ支援であるということが根本であると考えています。このことを踏まえて、これまで実践してきたこととお話ししたいと思います。

クラスは、1年生のときから学年崩壊を繰り返しているクラスで、特別な配慮が必要だと考えられる子どもたちが9名います。学習発表会でAくんは友達を叩くなどの行動があり、他の子どもたちが終了後に「先生、聞いて」と来ることがありました。これはなんとかしなければいけないと、「みんなよく思い出してね。1年生のときはAくんは学習発表会のときはお友達のことをたくさん叩いて、机の上をかけまわっていたよね、2年生のときは…、3年生のときは…。どう今年は？」と話す、「Aくんも成長しているんだ」という雰囲気になりました。日々、こういった子どもたちと向き合っています。

そういう子どもたちに聞いてみました。「どうして勉強しないの?」「どうせできないし」、「どうして学校嫌いな?」「つまらないし」、「どうして先生に反発するの?」「どうせ俺が悪いって言うし」。みんな、「どうせ」と言います。これまでに担当した6年生のあるクラスは、5年生のときに学年崩壊をしていました。先生方の経験の中でもあると思いますが、目がつきあがっていたり、後ろから変なオーラが出ていたり、下を向いていて眉毛さがっているというような子がたくさんいました。特に6年生になるとこうした子が顕著に出てきますが、いわゆる二次障害だと考えています。5年生のときのこの子どもたちの様子を見ると、1時間のうち87%の子どもたちは授業を受けていない、やる気はないし、席にはいないし、教室にはいないし、でも何か理由があるんです。子どもに聞いてみると、「みんなはわかってくれないかもしれないけど、自分はいつも不安定な上でかなりがんばっている。立っていればいいだけではなくて、学校の先生も友達も逆立ちしていないといけないうようなすごく難しい要求をしてくる。でも、みんなはできて当たり前だから、自分ができないことは叱られるかもしれない、どうすればいいのかといつも思っていた。身体は緊張するし、安心もできないし、集中もやっぱりとぎれてしまう。『先生、もう休んでいい?』『助けて』と言っているんだけど、なかなかそれは伝わらない。他の子と比べられるから伝わらない」と。そうになると、もう良いことない、イライラする、むかつく、もうやらないという行動的な問題が出てきて、それだけではなくて必ず孤立していってしまいます。二次的な障害の問題は校内の問題ではなく、社会的問題にもなってきています。ある施設を訪問したときに衝撃的だったのは、その施設に初犯で来ている子どもたちはすべて小学校で何かがあったであろうと言われていることでした。私も小学校の教員なので、なぜそ

のときに気づけなかったのか、小学校教員の役割は大きいのではないかといろいろなことを反省させられ、勉強をしなければと思うきっかけになりました。また、別の研究会で少年院の先生方のお話を聞かせていただくと、少年院にいる子どもたちには学校での学業不振、低学年のときの読解力の問題、学校のルールや正しいことがわからないなどの問題をかかえた子が多く、そのときに気づくことが大きいこと、また幼稚園からの連携も必要になってくるということを痛切に感じました。「学校は子どもたちに対して怠慢になっていないか」「学校が子どもたちにとって疎外感がある場、もしくは失敗の場になっているのであれば一緒に考えていかないか」というお話を聞いたときに、とても自分が考える機会になりました。発達障害イコール少年犯罪に直結するわけではないですが、主訴が発達障害の子どもが劣等感や疎外感などさまざまなものを感じ、それが二次障害の要素となつてつながっていくということを教員は頭に入れておかなければならないと思っています。いわゆるプツンと壊れるわけではなくて、やはりジワジワときているからこそ崩れるものがあるということを考えておくことが大切だと思います。低学年の読み書きというのは引っかけるところなので、1、2年生の先生の気づくという支援も必要なのではないかと思います。子どものときに体験した二次障害について大人に尋ねた調査の結果では、「体調が悪くなる」「不安が強くなる」「うつになった」ということが出ています。学校の子どもでも身体には問題がないのに血尿が出て、WISCをとってみたら50台で、安心できる場所を提供したら1週間で血尿が止まったということがありました。身体に出るということも気づくポイントとしては大事だと思います。「誰かから援助を受けたか」という問いには、「援助を受けていない」という回答が多いです。「誰かから援助を受けたいと思ったか」という問いには、「受けたかった」「助けてほしかった」という回答が多く見られます。「誰にですか」という問いには、家族、友人、教師があがり、「先生たちに助けてもらいたかった」という思いがあったことがわかります。資料では、自閉症スペクトラムだけをあげていますが、いじめや虐待の裏にはこういったことが課題となり、さらに拒食などいろいろな現れ方をしていることが考えられ、気づいていく一つのきっかけにしていければと思います。現在、小学校でコーディネーターをしており、コーディネーターとしての2時間と空き時間を使いながら関わっています。WISCなどの検査結果もすべてコーディネーターのところを通る形になっていますが、本校に限ってですが、WISCの結果にある傾向が見られた子どもは4年生から100%不登校傾向になっているという状況があり、早い段階で対応を考えていこうとしています。

さまざまな状況で気づく機会というのはあるけれども、まだ平気だよねというところから徐々に問題が深まっていったときに、「どうしたの」という言葉かけではなくて「なんとかしなさい」という言葉かけになっているということはないでしょうか。このマイナスのスパイラルを解決するために、ユニバーサルデザインという意識をもってきたいと思っています。ユニバーサルデザインというのはいろいろあると思いますが、3つの車輪（授業、個人、学級集団）がうまくまわってこそ機能するのではないかと思います。1つはやはり子どもたちがたくさん時間をかけて過ごしている授業です。それを支えるのが学級集団、特に小学校では学級集団とリソースルームです。そして、これを支えるた

めには校内支援、理解の共有が教職員の間では絶対できていることが必要です。チーム全体で頑張らないとこの仕組みはうまくいきません。

授業ですが、ビデオを使って観察をしました。子どもたちの様子を「A 積極的に授業に参加している状態」「B まあ参加している状態」「C 姿勢が乱れる、手遊びなどの状態」「D 妨害、出歩き、暴言など」としてビデオを見ながらポイント化しました。その結果、1年生でも6年生でも教師が話す時間というのが難しい時間であることを感じました。特に1年生は、良かれと思って個別に関わる時間を取っていますが、その背中ではすごいことになっているということがビデオを見るとわかってきます。ノートに書かせるということも書けない子にとっては大変、発表するというのも発表する子にとってはよいが聞くだけの子にとっては難しい時間になるということがビデオの中で顕著になりました。こうしたデータから、6つの項目（①指示・説明の工夫、②学習活動のユニット化、③学習時差の対応、④視覚化、⑤動作化、⑥称賛の工夫とその機会を増やす）を授業の中に取り込んだらどうかということで取り組みました。よく見ていただくと、ほとんど先生たちがやっていることと違いないと思います。

1つ目の指示・説明の工夫は、話を長くだらだらしないことです。「～して、～して、それが終わったら～してください。わかりましたか」では、「先生、質問です」となります。質問で時間が10分くらい取られます。板書しながらがよいと思いますが、「～してください。～しましたか」「～するよ。～時までにはやってくださいね。終わったら～するよ」と一つ一つ黒板に書きながら、もしくは言いながらすることで、質問の数は劇的に減ります。経験上、細かく説明したほうがお互いのためによいと思います。また、あいまいな言葉「じゃあ、昨日やったのを出して」「この間やったのをもう1回言ってくれる」では、『この間』っていつ」ということになるので、「あっち」「こっち」などはとても難しいと思います。初任者の先生方のクラスに行くと、これが一番多いかなと思いますが、ものすごくザワザワした中で話し始めていて、聞き漏れているということがあります。必ず「今から話をするから聞くよ」「姿勢を正してこちらを向いて」と言うだけで全然指示の通り方が変わってくるので、注目を上げる言葉というのもとても大事だと思います。

漢字の学習についても、いろいろな方法があります。漢字の足し算だったり、そら書きだったり、絵から覚えたり、また、20個書くより、色塗りをしてシールを貼ってデコボコ感を目で見えて感じてそのあとに書いてみようという段階をふむような方法が効果がある子もいます。1文字1ページに書く宿題などは効果がない子もいて、だったらこの3文字に集中してやろうよというほうが効果的な子もいます。歌で覚えるほうが完璧な子もいるし、iPadを使った方法もかなり効果をあげています。

クラス作りで大切にしたいことはいくつかありますが、静かなクラスを作れるかどうかはとても大きなポイントだと思います。これができるだけでも、授業の配分がだいぶ違ってきます。

2つ目は、学習活動のユニット化です。先生たちもこのほうがやりやすいと感じますし、子どもたちも飽きずに進められます。15分、15分、15分として授業の中にメリハリをつけて、子どもたちの集中がとけないようにしています。1時間ダラダラと授業をやっている

るよりも 15 分のメリハリがあったほうが子どもたちの集中力は続きます。

3 つ目の学習時差は、学力差が出てくるのが結構あるので、前もってプリントをたくさん刷っておいて、終わったらやっていいよとすると効果がありました。小さい子どもの場合は保護者の協力を得て子どもにやらせたい勉強（プリントなど）をノートに貼ってくださいとお願いし、子どもたちは自分の学習が終わるとそれに取り組みます。それをマイノートとしてやると、先生にもほめてもらえるし、家の人にもほめてもらえるし、好きな子が多かったです。

4 つ目の視覚化は、先生方が無意識にされていると思いますが、80%の情報は視覚ルートで得ているわけなので効果があることは間違いありません。色はかなり効果があります。資料にあるのは視覚化した黒板の様子ですが、左上にあるタイマーはすばらしく、本校でも 4 年生まで全学級に買ってもらいました。時間を守るということが大きく変わったと思います。「あと 1 分やって」と言うのと「1 分って何」となりますが、1 分が量で見えるので、小さい子どもたちも時間が守れて行動できるようになってきています。その下にあるのが、「今日の授業の流れ」を示したもので、クラスの A くんはずっと集中を持続できないので、「何番と何番はやってくれる？」と言うと、「1 番と 3 番をやる」と集中して取り組めるのでそういう場面でも使っています。モニターを使ったり、時計、「教科書何ページだよ」という表示の活用や、授業のときは忙しいので準備ができなかったときには、赤いチョークを使って枠で囲んでここだけは書いてというのを決めるのも 1 つだと思います。子どもたちの様子を見ながら、こうした方法を考えていくことも私たちの仕事なのかもしれないと思っています。1 年生のときは、教科書の字と字の間に間がありますが、2 年生になるとなくなります。2 年生になって読み書きができない子が出てくるので、そういう子には赤い斜め線を入れてあげるだけでもかなり読みやすくなることも感じています。あるとき、とても書くことに時間がかかっている子どもがいて、見たら（明朝体の文字の線の終わりの）三角まで書いている子がいました。明朝体はかなり混乱する子どももいるので、こだわりが強い子にはゴシック体のほうが書きやすいと思います。色をつけることでわかりやすくなるものもあります。色を変えるだけで、わからない、やらないということもあるので、チョークの色をうまく使うことも必要だと思います。

5 つ目の動作化では、手遊びやゲームを授業の中にどう組み込むかということもとても大事だと思っています。授業で、ヒントを教室のドアや廊下に貼っておいて「静かになったら行っていいよ」というふうにすると、静かにヒントを求めて「こういうことか」と言いながら席に戻ってきます。これはとても効果があって、質問もなくなりましたし、白紙もなくなりました。例えば、A くんのように長い距離を歩いたほうがよい子には廊下に貼っておくということも効果がありました。国語の勉強でも、会話を全部切り取って、「会話の順番に並べてごらん」と声をかけると、教科書を見るのが嫌いな子も一生懸命に教科書を見て「この順番だよ」とやるようになります。A くんが座って学習をするというのがとても感動的でした。消すことが嫌いな子どもは計算を間違えたままでいたりするが、カードを用意することによって、消さなくていいのでとても集中してやっているということもあります。ただ、カードを並べることができないのでとても時間がかかりますが、ただ



消さなくてもよいという状況を作るだけでもたくさん勉強をするようになりました。iPadを使って自分の様子を見てみよう、確認しようというのも効果があります。また、グループ学習などでも一人一人ホワイトボード（手作り）を持ってやると、できる、できないがはっきり見えるので、長々した文を読むのが苦手な子でもこのグループではできない人が多いんだと、話し合いに参加する意欲が持てるようになりました。

6つ目の賞賛の工夫とその機会を増やすは、ゴールは同じでも一発で高い壁を越えさせるか、スモールステップにするかでも子どもたちの意欲は変わってきます。授業のときに今日はこれをしようという目的をもって、教える、教えないでもほめることは変わってきます。目的がないまま授業をやってしまうと意外とどうでもよいところを注意してしまったりします。5S（さすが、すばらしい、すごい、それでいいよ、すてき）はとても効果があり、1ヵ月で子どもたちがかなり落ち着いてくるクラスもあり、この5Sを心がけています。ルールが守れない子を叱るととても雰囲気が悪くなるので、守れる約束を作ることが私たちの力量なのではないかと考えています。宿題も全体にも出しますが、個別の宿題も出しています。勉強が嫌いな子が家でやるわけではないので、家でもできる課題を出すということが、結局、家庭学習の習慣をつけることにつながると思います。

あとは、日々本当に忙しいので、こういった電子機器などを使ってお互いに良いような状況を作るというのはとても必要だと思います。電子黒板を買っていただき、算数の点数が変わりました。

これらの結果、授業向上変化がかなり見られ、6年生では100%授業に参加する児童が増えました。授業を改善すると、授業だけではなく学級集団の生活もかなり変わってきました。1年生では、クラスは楽しくなったし、先生も助けてくれるようになったし、友人ともうまくいったという結果でかなり向上が見られました。授業を変えるだけでこんなにも変わります。授業も一単元だけのデータなので、一単元だけでも学習だけでなくクラスの状況も変わっていくことに衝撃を覚えました。そのほかにも、A児、B児、C児という障害がある子どもから学習に困難がある子どもまでデータをとりましたすべて向上しました。では6年生はどうかというと、あまり変わりません。6年生で対応するにはとても時間がかかるので、1年生のときに対応すると大きく変わってくるということをすごく感じました。

最後に、それらを支えるにはクラス作りだと思っています。まずクラスの土台は信頼関係がなければ何も進まないのではないかと思います。日々ものすごくどなるし怒ってしまうし毎日反省もしますが、でも、ほかほか学級を作るために「みんながいてくれてとっても楽しいよ」「みんなが困っていたら先生は力になるよ」「みんなもお互い大事にしようね」ということをいろいろな場で声をかけるようにしています。そうすることで、子どもたちが安心できるクラスができるのではないかと考えています。そのほかに学級経営の20の法則を考えてみましたので、あとで資料をご覧ください。

そうは言っても気になる子どもが教室にいて難しいということも聞きます。わざと問題行動を真似する子、刺激スイッチを押す子というのはいると思います。それは意外とその子たちに合わせた行動、寄り添い方や支援をするとおさまっていくということがわかって



きています。プライドを大切にというのはすごく難しいが、「ねえねえ何されるといや？」と聞いたりしながらそのプライドの部分を確認するようにしています。

これは自分のクラスです。本校は先生方のデスクは後ろに、掃除ロッカーの前に置いてくれています。子どもたちがわからないときに前に質問に来なくてよくて来やすそうです。宿題忘れなども前の黒板ではなくて、掃除ロッカーに貼ったりして活用しています。ハッピールームのようにちゃぶ台を置いて子どもたちがいろいろ活動したり、イライラしたときにここに寝転がったりする1年生を教室に連れていったりします。当番活動や掃除活動も一人一役を徹底しています。「何やるんだっけ」と言われたい状況を作るようにしています。机の上にもA4のクリアファイルを貼って、大事なものをそこにはさむようにもしています。でも、そんなに学校で配慮したって、受験になったら困るんじゃないと言われることもあります。少しずつこういうことは増えているのもっともっと増えたらいいなと期待もしていますし、こういうことが起きているということを他の先生方に知ってもらいたいのも大事かと思えます。また、SOSノートも作っています。このノートにあらゆるマニュアルを貼って、困ったらまずそこを見てとしています。先ほどの児童も机の上に貼っておいています。「暴力はふるわない」「盛り上がりたくない」などと書いて、できたらシールを貼っているが、自分ではと気づくので今5人くらいが作っています。宿題もバラバラすると忘れてしまうので、このケースの中に入れて忘れなくなります。学級会で話合ったことも、一人一役、自分は何をするかということを書いています。それから、子どもたち一人一人にメッセージを書いて4月8日を迎えました。先生は「みんなを待ってたよ」「早く会いたいよ」「いいところを知っているよ」ということをアピールしています。ひつじ年の3学期の始まりにメッセージを貼ってみました。羊のカードをめくると、席替えが貼ってあります。「おはようございます」と毎日毎日メッセージを送るようにしています。今日は僕のことを書いてくれるかなと思ってきて、書いていないととてもがっかりするようです。

私の仕事を支えてくれているのは、まさにiPadとiPhoneです。連絡帳に私がメモすると先生の字は汚くて読めないと言いますが、パソコンで打った字は「よし、わかった」と忘れ物が減り、そうした字だとわかる子どももいるんだと思ったので、iPhoneを使ってお母さんと交換日記のやりとりをしています。また、「静かにタイム」といって、Aくんにも使っていますが、2分話すと犬が吠えるもの（アプリ）を使って、犬が吠えなかったら合格といったものも使っています。アプリがあるので効果的に使えます。

教室でも難しい子、授業も一斉では難しい子にとっては、子どもたちがいられるリソースルームというのはかなり効果があることがわかってきました。本校では、リソースルーム「スマイル1、2、3」を設けていて、スマイル1は教員免許状をもった人、学校の職員が対応していて、学習に遅れのあるお子さんに対応しています。スマイル2は私が担当していて、何か課題があるかな、おうちの人が困っている子どもたちの対応しています。スマイル3は、今後、支援学級に行きたい、支援学級を考えているお子さんが支援学級の中で学ぶというもので、3段階にしています。通級に行けばいいという話もあるかもしれませんが、通級にはいろいろな規定があるので、いわゆるグレーの子、どこにも居場所がな


い子を校内の中で支えたいというのがあり、そのようなシステムをとっています。いろいろなお話させていただくと、「そういうのに出るのを嫌がる子はいない？」と言われますが、本校はもう受け入れられないという場合もあるくらいに利用されているし、子どもたちも「行ってくるね!」、みんなも「行ってらっしゃい」といった感じになってきているので、すぐにそういう状況になるかどうかは別ですが、積み上げていったり、私たちの思いを伝えていくことで何か子どもたちや保護者の方が安心できる学校づくりにつながるのではないかと思います。

(文責 埼玉純真短期大学 金子恵美子)

ユニバーサルデザインを生かした授業づくり・学級づくり  
～みんなが学級の主役になった～


八潮市立大瀬小学校教諭 柳橋知佳子先生

ユニバーサルデザインを生かした  
授業づくり・学級づくり  
～子供への見方をかえて 味方になりませんか？～



ユニバーサルデザインって

- 特別な支援を要する児童には「ないと困る支援」であり、どの児童にも「あると便利で・役に立つ支援」である。



二次障害



できないと叱られるかも... 身体は常に緊張 SOS

だれかまえてくれたらできるのになぁ

これってかなり難しいのに、頑張ればできるかな

安心できない ドキドキ 集中できない 疲れる

不安定な上での難しい課題



いいことない イライラ むかつく!

もうわらない 嫌い!



ひとりぼっち

友だちも近寄らない

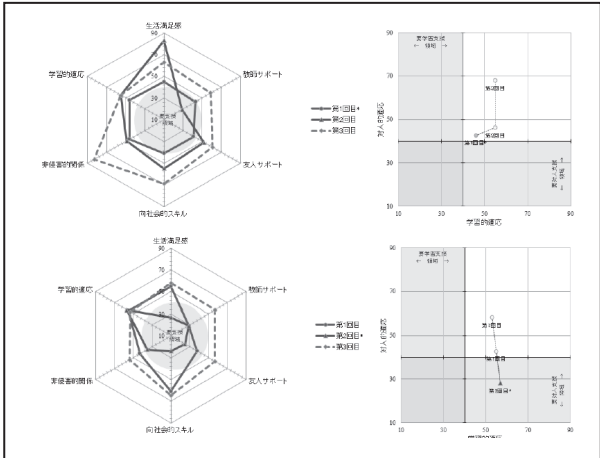
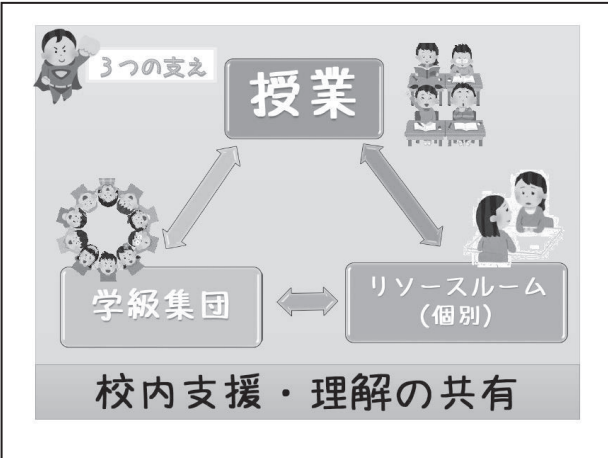
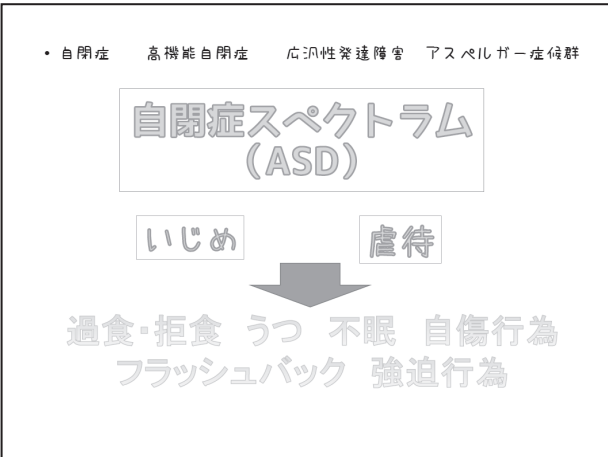
クラスの中にいたくない

見張られている...

だれもちゃんと話を聞いてくれない

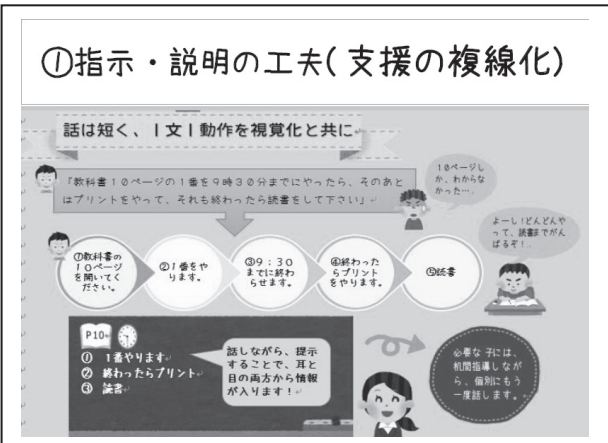
いつも自分だけが悪い





- ### 支援のポイント6項目 ～授業の検証から～
- ① 指示・説明の工夫
  - ② 学習活動のユニット化
  - ③ 学習時差の対応
  - ④ 視覚化
  - ⑤ 動作化
  - ⑥ 称賛の工夫とその機会を増やす

- ### クラスづくりで大切にしたいこと①
- ① 静けさを大切にできるクラス
  - ② 聞いてもらえる心地よさを体感しながら話を聞く大切さを全員が実感できるクラス
  - ③ 聞く姿勢ができていけるクラス



- ### ②学習活動のユニット化
- ① 飽きずに進められる
  - ② 時間的流れに安心できる
  - ③ 活動の区切りは心と集中の区切り
  - ④ 教師も取り組みやすい!
-

### ③学習時差への対応

忙しい毎日！まとめて作っておきます！  
 ○自主的に取りに行けるようになります。子どもによっては、宿題を持って帰る子も出てきます！  
 ★『しベル』なんて書き加えておくとかやる気アップです！  
 ★おりがみの折り方やぬりえ、迷路もおすすめです。

○マイノート  
 作成には、保護者の方のご協力をいただくといいでしょう。（懇談会等でメリットを話す）  
 ○リベンジノート  
 間違えてしまったプリントやテストを、どんだん綴じて、マイノートと同じように使用します。

個別の課題を用意（ストック）しておく

マイノートの作成

### ④視覚化

これだけでも変わります！

授業の流れ

- 1 10分間の学習
- 2 5分の休憩
- 3 ブロックを2つずつで授業をすすめていく
- 4 10分間
- 5 チャレンジタイム

11-5のけいさんのしかたをかんがえよう

いちこの作業が11にありませう、5こたはまじな、のこりばなんこほしやう？

- ① ぬきさんこほばなんですか？
- ② しきをわきませう？
- ③ こたはなんですか？

授業の流れを始める前に読みます。ゴールがあることで、ゴールまでの時間も感覚が短く感じやすくなります。また、授業の進捗もわかるようになります。子どもがやる気が出てくることで、授業の進捗もよくなります。授業の流れを始める前に読みます。ゴールがあることで、ゴールまでの時間も感覚が短く感じやすくなります。また、授業の進捗もわかるようになります。子どもがやる気が出てくることで、授業の進捗もよくなります。

### ④視覚化

これだけでも変わります！

今日の予定

- 1 算数
- 2 国語
- 3 音楽 運動
- 4 生活科
- 5 保健

教室のドアや壁等に、ヒントやプリントの答えなどを貼っておく。  
 ヒントに頼る子どもでも、苦手な子どもも課題に取り組みやすくなる。ルールは、お話しな

### ⑤動作化

二人組やグループでの話し合いは、学びを高めただけでなく、人間関係づくりにも効果的です。効果的に行うためには、準備が必要になります。

- ①話し合いの仕方
- ②マイホワイトボード
- ③サイコロ
- ④時間

教室のドアや壁等に、ヒントやプリントの答えなどを貼っておく。  
 ヒントに頼る子どもでも、苦手な子どもも課題に取り組みやすくなる。ルールは、お話しな

### ⑤動作化

授業の流れや途中に、手遊びを入れると、やる気が下がったり、わがままな行動が出てきたりしている子どものリセットにもなります。

手遊び

ゲーム

ブロックだけでなく、様々な身体物を活用することで、やる気はアップ。また身体物を操作することで、授業的に考えることもできます。授業中に考えることの苦手な子どもにもなります！  
 種類別にケースに入れておくことで、どんな教科でもすぐに使えます！

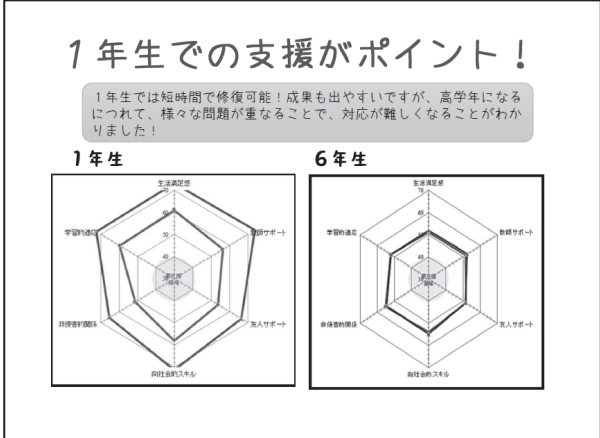
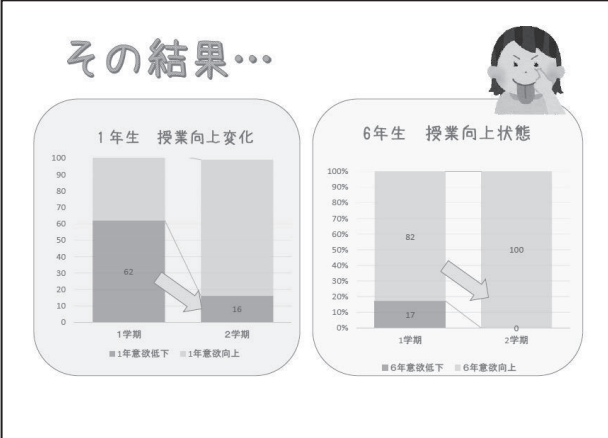
### ⑥称賛の工夫とその機会を増やす

注意をひいてから、伝えましょう！

スタート

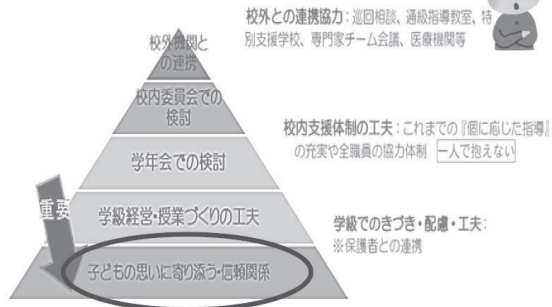
ゴール

スモールステップを踏むことで、できることが増えます！そうすれば、自然とほめる機会も増えます！  
 子どもたちも、やる気になり、教師との信頼関係も築けるチャンス！一石二鳥です！





# 支援体制づくり



# 学級経営20の法則

- ①イガイガ言葉撲滅！ぼかぼか言葉推進 ⑩クラスがまとまる記念日遊び
- ②叱り方3段階！ ⑪授業づくりに
- ③静寂の時間を作る「サイレントモード」 『視覚』『動作』『模倣化』
- ④叱るのはあっさり！行動はしつこく！ ⑫3問（サンマ）を意識して
- ⑤2つの顔で「メリハリ」を ⑬遊び心を忘れずに
- ⑥3秒ルール ⑭笑顔！褒める人
- ⑦具体的指示「あと〇分で終わり」 ⑮学級活動は子供のゴールデンタイム
- ⑧スペシャルデーマジック！ ⑯個のものさしを大切に！
- ⑨全体指導と個別指導の使い分けを ⑰心の目と心の耳で
- ⑩ゆっくり毅然と！話の間を大切に ⑱頑張る子どもたちが得するクラス！
- ⑫ルールは安心材料



## 通常学級の『特別』ではない支援教育 ー学級経営と授業のユニバーサルデザインー

植草学園短期大学教授 佐藤愼二先生

### ○通常学級ユニバーサルデザイン

自閉症の子にとっては静かな環境が大事になるが、他の子どもたちにとっても静かであることは指示や説明が伝わりやすくなることであり、どの子にとっても過ごしやすい環境となる。静けさは発達障害の子どもには「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利で・役に立つ支援」である。通常学級ユニバーサルデザインとは、すべての子どもにとって学びやすい環境を作ることである。Aくんには「ないと困る」支援から、他のどの子どもにもありがたい支援を増やしていこうという取り組みである。

### ○見方を変えて・味方になる！

#### ・自閉症の子どもたち

分かっていないためにうまくできない子どもたちがいるのではないか。

自閉症の子どもたちについて、例えば「顔をうまく認識できないことが多い」場合があり、IQは高いが外で出会ったときに相手の表情がわからないために親に気づけないということが起きることがある。また、キレやすい子どもがいるが、相手の顔の表情がわからないために相手の意図や気持ちを読み取ることができなくて、「なんだお前」となっている場合もある。これはなかなかしんどく、いろいろなトラブルが起きていく。相手の気持ちがよく理解できる人から読み取れない人まで誰しもその連続線上のどこかにいるが、それが強いか弱いかであり、学校生活上、社会生活上、困難さをきたす場合にはそれを発達障害と呼ぶ。

また、「わからない」ということはどういうことか。暗黙のルールがわからないということは自分の行動が合っているか、間違っているかの判断基準を持っていないということになる。子どもの問題行動を見たときに、Aくんはそれが本当に問題だとわかっているのか、なすべき適切な行動をわかっているのかを我々は考える必要がある。

コミュニケーションについて、資料に「書き言葉が第一言語で、話し言葉は第二言語」とある。視覚情報は重要であり、自閉症の子どもには「ないと困る支援」であるが、どの子どもにも書かれたものがあるほうがわかりやすい。そういう支援を増やしていくことが必要である。

また、こだわりがある。こだわりがない人はいないが、こだわりが強すぎて、社会生活上の困難を生じている。歴史上の人物でも自閉的な傾向が強いと言われる人たちはたくさんいて、それぞれこだわった世界で爆発的な力を発揮している。こだわりをなくすことは



難しい。であるとすれば、よいこだわりを育てるという逆転の発想が教育には大切である。

感覚の過敏さ・困難さについて、感覚が過敏で「耳が4つ、前にも後ろにも向いているように音が入ってきた」というエピソードがある。聞こえすぎてしまう。そのため、静かな環境を作るとは自閉症の子には絶対「ないと困る支援」である。しかし、これはすべての子どもにとって大切であり、指示や説明は確実に伝わりやすくなる。ユニバーサルデザイン教育を進めると学力が上がると言われる所以である。

#### ・ADHD の子どもたち

わかっている努力してもできないということもある。ADHD の子どもに多い。目で見ると記憶の箱が大きい人もいるが、小さい人もいる。ノートを書くのが遅い子どもたちの中には、それによって苦勞している子どももいる。「早く書け」と言われても、記憶の箱の大きさはすでに決まっているので早くはならない。100マス計算、マークシートがうまくできない場合もあり、センター試験の1次試験ではマークシートではない回答方法を認めている。障害者差別解消法が来年の4月から力を発揮する。年内には学校現場でどういう対応をなさよというガイドラインがおそらく出されるはずである。集団が苦手であれば別室受験を認める、ノートを書くのが遅ければデジカメでとる、字を書いたり読んだりするのが苦手であればiPadを使うなどの合理的配慮を考える必要もある。小学校低学年の先生にお願いしたい配慮としては、すぐに写さないでみんなで1回読む、耳で聞いて覚えるという方法も使えるようにするという習慣をつけていただきたい。

「周りの環境のせいで課題にじっと集中できない。周りが静かな環境になると集中できる。状況によって集中できたり、できなかったりする」というのは、ADHD の子どものしんどさをよく表している。多動性の傾向の大きさは変わらないが、学校を変わることで目立ちにくくなるということがある。この子どもたちは「環境要因のバロメーター」と言われる。環境の影響を受けやすい。担任の先生やクラスが変わると落ち着く子どももいる。

小学校低学年の場合、聞き間違え、聞き逃しをすることがよくある。「～ページを開いて、～番をやるよ」と言ったときに、「先生、なんですか」という子どもがいる。耳で聞く記憶の箱が大きい人がいれば、確実に小さい人もいる。「～ページです」「～番です」と言うほうが確実にわかりやすい。そういうことが大切になる。話し方一つに敏感な子どもたちと理解する必要がある。

多動性、衝動性のある子どもは、大きくなってでもどこかに多動性は残りやすいと言われる。小さい頃はとにかく叱られやすい。おおらかな気持ちで受けとめる。普通にやるというのはこの子どもたちにとってはとてもがんばっている。きちんと座っているのは相当がんばっている。これをほめるのを逃さない。

#### ・LD の子どもたち

読み書き計算で苦勞しているLDの子どもたちが通常クラスの中に4.5%いると言われている。自閉症が疑われる子どもの4倍、ADHDが疑われる子どもの2倍、数としてはLDが一番多い。周りに“迷惑をかける”ことが多いADHD、ASDに対して、LDは“迷

惑をかけない”ため、これまで支援が後手後手にまわってきた。しかし、のちのち不登校になったり、少年非行に結びつくケースも多い。どのように困っているのか。鏡文字などはその現れである。結果的にはノートを書けているため目立たないが、本当は書くことに困難があり、ノートを書くのが遅いということもある。わかっていて努力してもできない場合がある。また、字を読むことについていろいろな見え方があり、句読点があってもうまく読み込めない場合がある。句読点が横の文字の一部として吸収されてしまうというケースもある。さらに集団の中ではあせる。そして先生が作業のときに追加の指示をしていると、作業はより難しくなる。一時一作業が原則である。

また、英語の文化圏は10人に1人がLDと言われており、LDが多い。日本語などに比べ英語はアルファベットの数は少ないが、同じスペルが繰り返され、まるですべてをひらがなだけで書いているような読みにくさや、同じ綴りでも読み方が違うという難しさもある。

資料のLDであるAさんの手記から、自分でもできないという自覚が芽生えてきて、でも「あくまでも自分の努力がたりないせい」と考えていることがわかる。小学2年生に直面調査で読みに関する調査をした先生がいる。2倍以上時間がかかる子どもが48名中11名いた。すべてがLDということではないが、読むのに2倍以上時間がかかるということは困難が大きい。書きの困難はあとに残るので気づけるが、読みの困難は気づきにくい。読み書きに最初に出会うのは小学校1年生である。ここで気づかれないと“サイレントLD”（静かに困るLD）になってしまう。小学1年生のときに気づくことが大事であり、1年生が最初で最後の支援のチャンスである。

#### ○見方を変えて、支援を変える！－具体的な支援・10の提案－

- ・子どもの話を聞く。本音の思いを大切に。

授業の45分間中40分立ち歩いている子どもに聞いたところ、「みんなみたいに座りたい」と言った。客観的に見ていると座る努力をしているようには見えない。しかし、5分だけでも座る努力をしていると本人は言う。当事者の経験では、下着の中にアリがいるような感じで座ってられない。多動性とはそういうものである。問題行動を目の当りにしたら本人の言い分を聞くこと、問題行動を最もなんとかしたいと思っているのは子ども本人であり、ほめてほしい、認めてほしいと思っていることを理解する。視覚障害の人に「これ読みなさい」「どうして見えないの」とは言わない。本人の努力ではどうにもならないことがあるかもしれない、本音の思いを聞こうとすることが大事である。立ち歩いている場面にばかり注目すると、それをどうにかしよう、なくそうとばかり思ってしまう。ここで逆転の発想が大事である。問題を減らすのではなく、問題を起こしていない状態を増やしていくという発想でかかわっていく。そして、どうしても叱ってしまうが、これまでも十分叱られてきており、うまくいっていない。だから逆転の発想で、できて当たり前前（じっとしていること）への注目を増やし、問題行動とは逆の行動（できて当たり前前（じっとしていること）を徹底してほめること）を徹底してほめることである。

- ・困った顔ができるクラスづくり

よいところをたくさんほめましようと言っても、困ることがたくさんあるのが子どもたちである。まだ 10 年くらいしか生きていない、わかっているもうまくできないこともたくさんある。大切なのは困った顔ができるクラスづくり、困っても助けてもらえるということである。合理的配慮が求められるようになっていく。来年の 4 月以降、教室で文字を書くのが難しい子はデジカメや iPad を使うことが出てくるかもしれない。「なぜあいつだけ」、「ずるいだろ」と言わない、違ってもいいよという文化を作ることである。誰でも困ることがある、困ることが違えば応援のしかたが違おうだろうということである。

- ・静けさは最大の支援

おしゃべりが激しい A さんがいると、つい我々は叱ってしまうが、実はおしゃべりしていないのがとてもがんばっている姿である。だから逆転の発想が必要になる。おしゃべりしていない状態の A さんに注目することは欠かせない。そして、クラスはおしゃべりしていない B さん、C さん…で 9 割構成されている。おしゃべりしている A さんを注意するのではなく、おしゃべりしていない B さん、背筋を伸ばして先生の話の話を聞いている D さんをほめる。観察学習が成立している。特別支援は個別の支援ではない。お手本になる子どもをたくさん育てていくことで、個別の指導の力が発揮されていく。

- ・ルールを守る子どもが大切にされる学級

守らない子に注目してルールを守らない子を注意するのではなく、それを守っている子をほめるためにこそルールはあるという逆転の発想が子どもたちの支援には必要である。

「静かにしろ」とよく言ってしまうが、逆に言えば聞く態度を育てるということである。静かにするときのミニネタを増やしていく。例えば、「お笑いカード」（「わーはっはっ、…おーほっほっ」と笑って、吐き出して静かにする）、「動くハンカチ」（先生のハンカチには耳がある。「今、おしゃべりしたのは誰だ？」、ハンカチを投げたら子どもに笑うように言う、「よく見てた。さすがは～年～組」）など、子どもが注目しないといけない動きをする。

- ・子どもをほめるために約束をする！

「～しない」とつい否定語の約束をしてしまう。「廊下は走るな！」、こうした指示は自閉症の子どもは苦手なことで、では「どうしたらいいの？」となってしまう。反対類推という余計な負荷がかかってしまう。問題行動とは逆の行動を増やすための約束をする。否定語の約束ではなくて、「～しよう」と約束する。そして、子どもたちをほめたい。できそうなことを約束して、結果としてほめる場面を増やしていく。ほめる言葉 5S（「さすが」「それもいい」「すごい」「すてき」「すばらしい」）をたくさん使えるように、守ってほめてもらえる約束をする。子どもたちが暴言を言うことが話題になることがある。暴言を減らすには、あたたかな言葉を増やしていくという逆の発想がないと難しい。あたたかい言葉を言ってもらったり、あたたかい言葉を使う心地よさを実感していかないと本質的には暴言は減っていかない。そのためにも守れる約束をたくさんして、ほめていきたい。

#### ・視覚的焦点化

視覚情報は強い。人間は80%の情報を目を通して得ていると言われる。だから視覚情報を使う。書かれたことが自閉症にとっては第一言語、大人でも視覚情報はとても強い。しかし、視覚情報はとても強いためにありすぎると混乱のもとになるので、貼り物を増やすのではなく、とにかくきれいにすることが大切になる。黒板の汚れ、たくさんのマグネット、掲示物は混乱する。「ここを見て」と言ったときに焦点化しやすいように周りの視覚情報を減らすということが大事になる。

#### ・聴覚的焦点化

話を聞く活動は、要点をつかみにくく、実は難しい。小学校でアンケートをとったところ、先生の話、友達の話聞いているという子は半分くらい。それくらい難しい。資料に「長い話や説明は外国語の授業のようだった」とあるが、まさにそうである。特に自閉症の子にとってはとにかく苦手なことである。聞いてほしい話に焦点化できるように、できるだけ話は削いでいくのが大事である。また、前置きも大事で、話を聞く姿勢を作ってから大事な話をする。座学は大変なもので、どんなに大きな声を出すより、どんなに視覚の手がかりをするよりも、動きほど人の集中力を上げるものはない。ADHDの子どもたちは動きたいので、授業中のなんらかの動きというのは「ないと困る」支援になる。音読は目で見て、声を出して、音を聞く、多器官を活用するのでとても良い。プリントを配る、回収する、班になる、「4番やるよ、指で押さえるよ」、立って隣の人と感想を言ったら座る、こうした動きをたくさん入れる。

#### ・聴覚・視覚・運動動作の同時的・複線的活用！

「学習の登山モデル」という言い方をしている。何かを覚えるときに登山ルートはたくさんある。誰しも得意、不得意がある。例えば、漢字を覚えるときの空書き（空中に書く）、指書き（手のひらに書く）、なぞり書き（ノートに書く）という方法がある。これはとても理にかなった方法である。空書きをするというのは視覚で覚えてもいい、運動で覚えてもいい、指書きで手のひらに書くのは触覚ルートで覚えていってもいい、好きなところ、得意なルートから登ってよいということになる。繰り上がり、繰り下がりの計算が苦手な子どもも多い。10の合成・分解を理解する必要がある。そのときにブロックを使って理解する方法は視覚、運動、触覚ルートでの理解となるが、それ以外の方法として、ある先生は歌を使ってとなえて覚える方法、つまり聴覚を使った方法を考えた。得意、不得意がそれぞれあるので、得意なルートを見つける。

#### ・当てにされる生活の実現

重い知的障害の娘の姿は、働くということの本質や人間存在の根本というようなものを教えてくれていると感じる。給料へのモチベーションではなく、仕事の終わりにかけられる言葉、自分にもできることがあって当てにされていることをどこかで感じているから仕

事へ行く。保育・教育は「サンマ（三間）」だと言われる。1つ目は空間、その子の居場所、出番、役割があるか、それが部活でも係活動でもよい、その子の役割、出番があるか、空間があるか。そして、それがその子にとってよい時間になっているか。それを認めてくれる仲間がいるか。「ありがとう」という言葉は、この「サンマ（三間）」の真ん中に位置づくような言葉ではないかと思う。「ありがとう」は「君がいてくれたおかげで」ということである。マザーテレサは、「人間にとって最大の不幸は自分はいてもいなくてもいい存在であると感じることである」と言っている。これは発達障がいがあるから、ないからということではなく、人に当てにされることが人には大切である。

#### ○保護者との連携

「親は一生、教師は一時」という言葉がある。クラスにどんなにかかる子がいても1年の仕事、でも親は一生という厳しい言葉である。では、教員の1年に意味がないのか、そうではない。娘は今でも学校が大好き、先生が大好きで週に1回は卒業アルバムを見ている。年長の1年間だけ見てほしいとお願いして受け入れてくれたある園でのとてもよい1年間、よい先生方と出会ってよい時間を過ごした学校教育の12年間もあつという間に終わった。娘が今でも卒業アルバムを見ている姿から、「母校」という言葉の意味がやっとわかった。母親のお腹がどんなに居心地がよくても二度と戻れない、こんなに素敵なお先生と出会ってもあの学校にはもう戻ることはできない、だから母校という。そう考えると、我々、教員の仕事というのはとても責任が重い。二度と戻ることができない小学校時代、中学校時代、高校時代を支えることになる。でも、もう一回あの学校に戻りたい、もう一回あの先生と生活をともにしたいという気持ちを抱かせることができるのも、我々、教員の仕事だということを思ったときに、かけがえのない、尊い、本当にいい仕事だということを改めて思った。発達障害のある、ないではなく、どの子どもにとっても二度と戻ることのできない一時を支えるためにみんなで力を尽くせていけたらと思っている。

#### <質疑応答>

（フロア）娘さんのお父さんとして、いろいろな先生がいるがどういう先生がよい先生だと思われるか。

（佐藤先生）やっぱり子どもの本音の思いに寄り添おうと努力する先生、そういう姿勢を常に持ち続ける先生というのは、今まで出会ってきたほとんどの先生がそうだったけれども、親としてもありがたかった。娘のことをわかって、親のことをわかってしてくれた先生。本当によい出会いをしたからこそ、今、娘がかなりの困難さを抱えながら就労を果たしているというのはそのおかげだろうと思う。

（フロア）特別支援教育、ハンディキャップをもった特別な支援が必要とされる子どもへの教育があるが、一方でインクルーシブ教育というものがある。子どもたちにとっては、どちらの教育のほうの方が将来幸せになれるのか。



(佐藤先生) インクルーシブ教育ということで共に学ぶ方向性にあるが、日本のインクルーシブ教育というのは必ずしも障害をもった子どもが全員通常学級に行きなさいということではなく、親や子どもの側の選択肢を増やすというものだと思う。通常学級というリソースもあるし、あるいは通級指導学級、特別支援学校というリソースもあるし、いろいろなリソースがあるがそれをうまく選択しながら個人にとって本当によい状態、インクルーシブ教育の報告書の中でも強調されているが、ともに学ぶということが最終的に生きる力に結びついているのか、そこが評価軸になることが書かれているが、自分がそこを軸として評価をしながら、できるだけ本人にとって一番よい教育リソースを使いながら、自立、生きる力に結びつく教育が今のインクルーシブ教育なのだと思う。

(フロア) 障害のお子さんの放課後支援や一時預かりの事業をしている。私たちは教育者ではないので、お子さんたちを大きく変えていく力はまだないのかもしれないが、できるだけ寄り添って、彼らの気持ちを代弁したり、少しずつ見守っていくことによって、何か少しずついい変化が起きることを期待できると思った。先生に教えていただいたミニネタを使わせていただきます。ありがとうございます。

(フロア) 今日はありがとうございました。資料の中でまだ紹介していないミニネタもぜひ教えてください。

(佐藤先生) 「1、2、3、元気ー！だー」「身体で漢字」「ペットボトルマジック」の実演。

(文責 埼玉純真短期大学 金子恵美子)

# 通常学級の『特別』ではない支援教育 ー 学級経営と授業のユニバーサルデザイン ー

植草学園短期大学 佐藤慎二

## I 通常学級ユニバーサルデザインとは？

- 発達障害等の子どもには「ないと困る」支援であり
- どの子どもにも「あると便利で・役に立つ」支援を増やす
- その結果として、全ての子どもたちの過ごしやすさと学びやすさが向上する。

## II 見方を変えて・味方になる！

ミニネタ「あいさつ拍手」

### 1. “分かっていないためにできない場合”の象徴的な事例として

→高機能自閉症・アスペルガー症候群等の子どもが抱きやすい困難さについて

高機能自閉症である本人の話・手記よりーあくまでも象徴的な例として

<社会性・対人関係に関して>

- ①「…私は顔をうまく認識できないことが多い」
  - ②「…人がどう思っているの分かりにくい」
- 相手の意図が読みにくい…  
○悪気無く問題行動を起こすことも…  
\*分からないと適切な行動がとれない体験

<コミュニケーションに関して>

- ③「書き言葉が第一言語で、話し言葉は第二言語」
- ④「言葉では考えず、ビデオの再生と同じように絵で思考する」

← 視覚情報の重要性を示唆するエピソード

<興味・関心の限局性に関して>

- ⑤「周りの中が一定のリズム動いていると幸福感がある。」(ドナ・ウィリアムス)

<感覚の過敏さ・困難さ>

- ⑥聴覚ー「耳が4つあり、前にも後ろにも向いているように音が入ってきた」→**静けさは授業の基盤!**

- ⑦時間ー「時間概念の混乱があり、未来という概念は大変想像が困難である。」→スケジュールカードの重要性

ミニネタ「タコタコ体操」

### 2. “分かっている・努力しても・できない場合I”の象徴的な事例として→ADHD等の困難さ

<書くことが遅れる体験I>

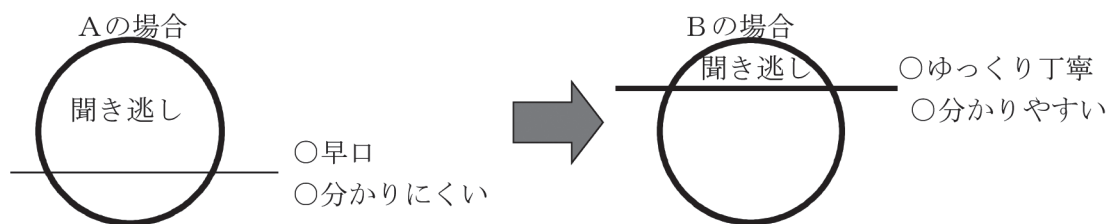
ADHDである本人の話・手記よりーあくまでも象徴的な例として

<不注意に関して>

- ①「『本を開いて』という指示を聞けていない→教師は『なぜいつも聞いていない!』と叱る。しかし、ぼくは『そんなこと聞いていなかった』『どうして文句ばかり言うんだ』ということになってしまう」  
→「聞いていない」のではなく→「うまく聞き取りきれない」困難がある
- ②「教室移動は、ものを忘れてしまうのでとても困難であった」
- ③「授業では、周り環境のせいで課題にじっと集中できないのだ。でも、試験の時は周りが静かな状況になるので集中できる。ぼくは状況によって集中できたり、できなかったりするのだ…。」



Aの場合は聞き逃しが起きやすいが、Bの一文一動詞の場合は起きにくい。  
 加えて、周りのどの子どもにも聞き取りやすくなる！



<多動性・衝動性に関して>

④「何かやってしまった後で、何であんなことをしたのか」「分かっているけどやってしまう」

⑤絶えずどこか動かしていないと集中できない。

ミニネタ「耳鼻つまみ」

3. “分かっていて・努力しても・できない場合Ⅱ” の場合の象徴的な事例として

→LD等の子どもが抱きやすい困難さについて

<書くことが遅れる体験Ⅱ>

<読むことが遅れる体験>

あしみじかくからだこえてりょうかくをゆうしおはながくてほそいひふにたんもうみっせいいろはし  
 ろくろかっしょくなどひづめはふたつにわかれるじょうがくにはぜんしなくくさなどをくいはんすう  
 すこうどうはにぶいがちからつよくとをだかやしくるまをひくのにしえきされる

LDであるAさんの手記から 「怠けてなんかない！」(岩崎書店) より

小4のとき、再び、読み書きについて「あれっ？」と思うことがあった。字が全く書けないわけではなかった。横に手本を置いて、それを見ながら書き写すことはできた。そして、さあこれで大丈夫だろうと思ってソラで書こうとすると、なぜか書けない。読むことは書くことよりは楽にできた。しかし、一字一字、逐字で読むので、読めても何が書いてあるか、わからなかった。小4のころから、「なぜか自分はみんなみたいに、すらすら読めないし書けない」という自覚がだんだんと芽生えてきたものの、そうなるのは「あくまでも自分の努力がたりないせい」と考え、おのれの努力不足をせめていた。・・・11歳で途方に暮れ、前にも後にも進めなくなった。不登校は、もうこれ以上はできないという心身の悲鳴だった。

ミニネタ「ラッキーファイブ」

1年生は最初で最大の支援のチャンス

Ⅲ 見方を変えて・支援を変える！—具体的な支援・10の提案—

1. 子どもの話・「本音の思い」を大切にする！—客観的な行動だけで評価しない！—

○子どもの話を聞く重要性

○問題行動を何とかしたい！と最も願っているのは、その子ども本人！

○努力してもうまくできないことを叱るとしたら…

○何に注目するのか？—着席状態に注目する=いい状態に注目して・いい状態を増やす逆転の発想！

## 2. 問題行動を減らす発想ではなく、問題を起こしていない状態を増やす逆転の発想！

①叱って子どもの行動を変えようとする発想を転換する！

\*力ではなく、本気で叱る場面は大切。特に、命(ケガも含)に関わること！

② “できて当たり前” の行動への注目を増やす！→じっとしていられな子は、じっとしている姿が「いい行動」←ほめる！

→乱暴な子どもは友達と普通にかかわっている姿をほめる！

② **魔法の言葉**—問題行動とは逆の行動に注目して、逆の行動を徹底してほめる！上にある二つの例

**ミニネタ「自分ほめほめジャンケン」**

③ **安心感！困った顔ができる！困っても大丈夫！助けてもらえる！**—助けて—と言える子どもに！

誰にでも“苦手・不得意”はあって当然。だから、“困ること”もあって当然。一人ひとり顔が違うように困ることが“違っても”も当然。**“困ることが違えば・応援の仕方も違う！”** “困ったから・助けて”と言っていいし、そう言える学級 にしよう—そんなメッセージを年度当初から繰り返し発信する！

→**困ってもいいんだ！**という雰囲気が学級に浸透すると、特別な支援は特別ではなくなる！

**ミニネタ「1. 2. 3. 元気ー！だー！」**

## 3. 静けさは最大の支援！「音の洪水にいつも溺れそうだった」「テストの時は周りが静かになるので落ち着いて取り組めた」(当事者の弁)

① 「どうしておしゃべはいけないの？」と聞くとどのような答えが返ってくるのでしょうか？

② 聞いてもらえる心地良さを体感している！—静かにすることの意味の確認—「聞く名人“あいうえお”」

③ 静かにしている状態をほめる！—逆転の発想で魔法の言葉！

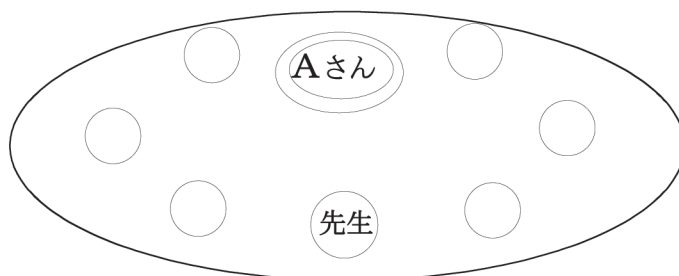
④ 静かにしている周りの子どもたちをほめる！—逆転の発想で魔法の言葉！

⑤ 静かにするときのミニネタを増やす！— **ミニネタ「お笑いカード」「動くハンカチ」「ゲラゲラハンカチ」**

**ミニネタ「ラッキーセブン」**

## 4. ルールを守る子どもが大切にされる学級！

☆周りのまじめな子どもへの注目を増やす！ほめる！→周り子どもが配慮を要する子どものお手本になる状況をつくる！



ルール・約束は  
それを守る子どもをほめるためにある！

## 5. 子どもをほめるために約束をする！—子どもと約束するときのポイント— **ミニネタ「身体で漢字」**

①問題行動を減らすために約束しない！—「～しない」「～してはいけない」という約束はNG

②問題行動とは逆の行動を増やすために約束する！—「～する」「～しようね」という約束で。

③その際、すでにできること・できそうなことで約束する！→結果として、“ほめる機会”増やす”

☆魔法の言葉Ⅱほめ言葉5S = \_\_\_\_\_

6. 視覚的焦点化—百聞は一見に如かず・目は口ほどにものを言う— **ミニネタ「おちたおちた」**

①視覚情報は強いゆえに、まずは視覚情報を減らすことを考える—ウオーリーをさがせ！にしない！

②見てほしいポイントが鮮明になるようにする—映画館のスクリーンのように！というたとえ。

→教室の正面はシンプルに。黒板はきれいに。見えない時間の流れをミニ黒板などで示す。

授業のポイントを示すマークや矢印を活用する等。

**ミニネタ「友達ほめほめジャンケン」**

7. 聴覚的焦点化—話し言葉は目に見えず・消えていく＝子どもは要点をつかみにくい—

①「長い話や説明は外国語の授業のようだった」（当事者の弁）—話のポイントに焦点化しやすいように、話し言葉を整理して減らすようなつもりで！

②かなり引きつける中身がないと、静止して聞くという受け身の活動が長く続くと集中力は落ちる。

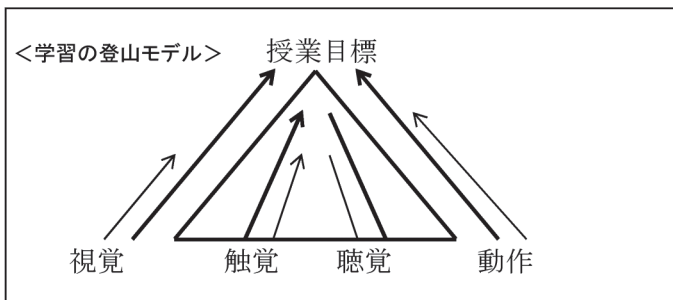
③前置きの指示の重要性

8. 動きも最大の支援！—集中力を高める＋本質的な理解を深める **ミニネタ「リズム肩叩き」**

☆ADHDの子どもにとって“動き”は「ないと困る支援」しかしどの子どもにも「あるとありがたい支援」になる！

☆音読、プリント配布、班の形、指さし確認、番号を指で押さえる、ペア活動…

9. 聴覚・視覚・運動動作の同時的・複線的活用！ **ミニネタ「ラッキー・イレブン」**



- 空書き—視覚法・運動感覚法
- 指書き—触覚法(弱い視覚法・運動感覚法)
- なぞり書き—より強い視覚法・運動感覚法

← ← の長さ太さの違いは覚えるスピードや得意・不得意の違い

**ミニネタ「暗闇ジャンケン」**

10. 当てにされる生活の実現—「サンマ（三間）の教育」・知的障害のある娘の姿に学んで—

**ミニネタ「ETになろう！」**

## V 保護者との連携 ー親は一生・教師は一時 教師の一時は子どもが二度と戻れない一時ー

### 1. 気になる子どもの保護者にどう伝えるのか？

### 2. すでにお子さんのことを受けて止めている保護者との連携

ミネタ「ペットボトルマジック」

#### <参考文献・拙書>

「ユニバーサルデザイン・アイデアCD付今日からできる！通常学級ユニバーサルデザイン」（ジアース教育新社）

↑ 本日、販売しています！

「実践 通常学級ユニバーサルデザインⅠー学級づくりのポイントと問題行動への対応ー」（東洋館出版社）

「実践 通常学級ユニバーサルデザインⅡー授業づくりのポイントと保護者との連携ー」（同上）

## 第5回研究セミナー参加者

1. 参加者 計	133名
来賓・指導助言者・提案者	6名
一般参加者	57名
・第1講座	10名
・第2講座	11名
・第3講座	32名
・午後のみ	4名
大学関係者	22名
2年学生	48名（2年ボランティア24名を含む）

### 平成27年度第5回埼玉純真短期大学研究セミナーアンケートの結果

1. アンケート回収率 77%（44名／57名）
2. 男女別アンケート回答者（一般） 男 10名 女 32名 無回答 2名
3. 年齢別参加者
  - ① 10歳代～20歳代 5名
  - ② 30歳代～40歳代 12名
  - ③ 50歳代 20名
  - ④ 60歳以上 5名
  - ⑤ 無回答 2名
4. 所属・役職等
  - ① 一般 3名
  - ② 保育園 5名
  - ③ 幼稚園 0名
  - ④ 小学校 10名
  - ⑤ 中学校 6名
  - ⑥ 高等学校 1名
  - ⑦ 特別支援学校 4名
  - ⑧ 関係機関 5名
  - ⑨ その他 8名
  - ⑩ 無回答 2名

（その他： 障害者福祉作業所、児童養護施設、学童、学生など）

（役職： 校長、教諭、保育士、指導主事、特別支援コーディネーター、理事表、家庭支援専門相談員、学習支援員など）
5. セミナーの情報入手
  - ① 学校（園、教委） 13名
  - ② 地域の会館等のチラシ 2名
  - ③ 地域の研究会 4名
  - ④ 友人や友達から 6名
  - ⑤ 大学から 11名
  - ⑥ その他 6名

（その他： 施設内での回覧、学校に配布されたチラシから、昨年も参加した、

毎年参加している など)

6. 参加しての感想をおきかせください

(1) 講演について

- |                   |     |             |    |
|-------------------|-----|-------------|----|
| ① とても良かった         | 31名 | ② 良かった      | 7名 |
| ③ まあまあだった         | 0名  | ④ 少し物足りなかった | 0名 |
| ⑤ 期待したものになっていなかった | 0名  | ⑥ 無回答       | 6名 |

(2) 実践報告について

- |                   |     |             |     |
|-------------------|-----|-------------|-----|
| ① とても良かった         | 27名 | ② 良かった      | 11名 |
| ③ まあまあだった         | 1名  | ④ 少し物足りなかった | 0名  |
| ⑤ 期待したものになっていなかった | 0名  | ⑥ 無回答       | 5名  |

(3) 講座について

- |                   |     |             |    |
|-------------------|-----|-------------|----|
| ① とても良かった         | 25名 | ② 良かった      | 7名 |
| ③ まあまあだった         | 2名  | ④ 少し物足りなかった | 1名 |
| ⑤ 期待したものになっていなかった | 0名  | ⑥ 無回答       | 9名 |

(5) セミナーの運営について

- |           |     |               |     |
|-----------|-----|---------------|-----|
| ① とても良かった | 27名 | ② 良かった        | 13名 |
| ③ まあまあだった | 0名  | ④ 少し改善したほうがよい | 1名  |
| ⑤ 改善を希望する | 0名  | ⑥ 無回答         | 3名  |

(6) 参加しての感想、次回の企画、要望、気づいたこと等について

○ 講演について

- ・ 素晴らしいご講演でした!! ありがとうございます。
- ・ スピード感があり、どんどん脳に入っていき感じでした。大ファンになりました。
- ・ ミニゲームは役に立つなと感じた。
- ・ 実際に話を聞くことで勉強になった。
- ・ あらためて4年前の埼特研のことを思い出したり、楽しく学び直したりすることができました。
- ・ 4年ぶりの講演、パワフルですね。日々の生活、学校をふり返ることができる機会となりました。明日からの指導に生かしていきたいと思いました。
- ・ 分かりやすい。子どもの気持ちを受け取るには、というところが良かったです。
- ・ 現場で使える指導法、ミニネタがたくさんあって、とても勉強になりました。

- ・ 講師の佐藤先生の話術にどっぷりとはまってしまった。多くの学びを発見。そしてミネタをこれからの支援にしたいと思います。
- ・ 佐藤先生の講演は、あきない、楽しい、わかりやすい。期待以上でした。
- ・ 分かり易い講演で、楽しめました。話し方の大切さ、間の取り方、すべて勉強になりました。
- ・ とてもアクティビティーに話が聞けた講演でした。
- ・ 笑いの中に、教育の本質や教員としてしなければならないことを、考えさせられる内容であった。
- ・ 特別支援教育にかかわるものとして、たいへん参考になりました。
- ・ 最後の保護者との連携についても聞いてみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ とても勉強になりました。
- ・ 実践をしたいことばかりで、楽しかったです。
- ・ 勢いのある講演は、あっという間でした。毎年楽しみにしている講演。とても勉強になります。貴重な時間となりました。
- ・ 充実した話。とても勉強になりました。
- ・ 佐藤先生のお話は、とても今後のためになりました。
- ・ 明日からまたがんばろうって気持ちになりました。
- ・ 佐藤先生の講演は二度目ですが、楽しく勉強できました。
- ・ 充実して、あっという間の時間でしたありがとうございました。
- ・ 日頃の教育活動への、よきヒントになりました。
- ・ 実践例が沢山あり、人をひきつける内容がもり沢山の良かった。
- ・ 思いが伝わりました。
- ・ 内容の濃い講演会でした。また、すぐ実践できることが多く、楽しかったです。
- ・ 内容的に具体性があり、エッセンスを分かりやすくお話いただきました。ワークショップも参考になりました。
- ・ 特別支援教育の視点と実践のヒントが満載でした。

#### ○ 実践報告について

- ・ 実践的な教育技術を提供していただき、とても勉強になりました。
- ・ とても参考になる実践報告でしたが、時間がたらなかったと思います。
- ・ すばらしい。わかりやすい
- ・ 今の小学校の現状が分かったような気がする。
- ・ 分かりやすく話をしていたので、聞くほうも集中して聞いた。もう少しスライドをゆっくり進めてもらえたらよかった。
- ・ たくさん資料をご準備いただいたので、もう少し、ゆっくりお話をうかがいたかったです。



- ・ 具体的な手立てがわかりやすかった。
- ・ 自分にも思い当たる子がいたので、とても勉強になりました。
- ・ 早くどんどん画面が変わってしまい、内容が把握しきれなかったのが残念でした。
- ・ 現場の先生の工夫と努力で変化は必ずある実践報告であった。
- ・ 現場の実態にそった報告、実践で、すばらしいものでした。
- ・ 生徒のために努力すること、よりそい支えることの大切さを学びました。
- ・ 保育園の子どもにも当てはまるものがあって、聞けて良かったです。
- ・ 実践力のすばらしさに感銘を受けました。
- ・ すぐに活用できる実践例を多く提示していただき、大変参考になりました。
- ・ ユニバーサルデザインに基づいた実践で、参考になった。
- ・ すばらしい! のひと言です。参考になりました。
- ・ すばらしい実践です。コーディネーターとして、どんな取り組みができるのか、具体例でわかりやすかったです。レジメにない資料についても、知りたいと思いました。
- ・ 学級経営にとって、より具体的な内容だった。一つ一つを参考にしたい先生もいたと思う。ゆっくり見せるか、資料としていただきました。ありがとうございました。
- ・ わかりやすく、学校で活用できそう。
- ・ 参考にさせていただくことが多くありました。
- ・ 大変充実した内容です。どの教員にも必要な資質の向上に向けたい。教師の一時は子どもが二度と戻れない一時…。責任を持って。
- ・ パワーポイントやお話がとても分かりやすかった。授業の検証から、子どもの実態に迫っているところが素晴らしく、説得力があった。
- ・ 現場の先生のお話は、パワーをもらえます。
- ・ わかりやすく、実践に生かせる。
- ・ わかりやすい内容でした。
- ・ 素晴らしい実践と研究。埼玉県の特例支援教育を導く灯台の役目。がんばって下さい。
- ・ 内容が多すぎ、時間が足りない。
- ・ 通常学級、学校での取り組みが、とても分かりやすいものでした。ありがとうございました。

#### ○ 講座について

- ・ 細田先生の読み方など、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 細田先生の読み聞かせを、羽生市内の保幼小中高の子どもたちをたてわりにして、少人数グループにしてやってみたい。
- ・ 絵本の読み聞かせの大切さ。そして今後自分が子どもたちに生かせるなど思いま

した。

- ・ 細田先生の読み聞かせを実際に聞けて、学生時に学んだことを改めて思い出しました。子どもの様子や気持ちを考えたり、見ながらできたらいいと思いました。
- ・ あらためて絵本のすばらしさについて学び直すことができました。
- ・ 改めて、本の読み聞かせの大切さを痛感しました。
- ・ 子どもに伝える絵本をどう伝えていったら良いか。絵本の読み聞かせでは、こんな投げ掛けをしたら良いのかというところが分かり、良かったと思います。
- ・ いろいろな絵本や絵本の伝え方を教えてもらえてよかった。読み聞かせを活用してみたいと思った。
- ・ 改めて、「読み聞かせ」の大切さを学んだ。(情緒を豊かにするツールとして)
- ・ 音楽は文字を越える(?) というような話が印象的でした。
- ・ 質疑応答の時間がないのは残念でした。
- ・ 深い知識を持つことが、指導してゆくうえで大切だと思いました。
- ・ 事例への考え方や、様々な職種の先生方の意見を聞き、新しい風を感じるよい機会でした。
- ・ 合理的配慮がテーマだったので、まず説明していただき、ポイントをしぼって事例検討をするとよかったのでは。全体的に自由度が高すぎ短時間で行うには難しい検討会であった。
- ・ いろいろな職種の方々がいて、参考になりました。
- ・ 事例研修は、実践にもとづいたアイデアを聞くことができてよかったです。
- ・ 色々な現場の状況が聞くことができ、大変参考になりました。
- ・ 様々な立場での意見を交換できました。新鮮でした。そして、目指す方向は一緒であると再確認致しました。もっと時間があれば…。稲垣先生のご指導をいただきたいです。
- ・ 意見交換できたことで、大変勉強になった。ただ、合理的配慮についての先生の話をもっと聞きたかったです。
- ・ 現場の先生方と意見交換ができ、とても有意義な時間を過ごせました。
- ・ それぞれの情報が知れて良かった。
- ・ 時間設定が短いと感じます。短時間でしたが、各班の発表ができよかったです。
- ・ 普段忘れてしまっていることが、思い返されました。初心忘るべからず。

○ 全体の感想、次回の企画、要望、気づいたこと等について

- ・ 学生さんのさわやかできびきびした動き、とてもよかったです。ありがとうございました。
- ・ 「学び直し」講座の時同様、佐藤さんの電話対応に始まり、学生さん方のおもてなし(案内、学食の片づけ等)、先生方の暖かな対応に感謝です。学び直し以来、

ずっとセミナーを続けていただき、学びの場を提供していただきありがとうございます。  
これからもよろしくお願いします。

- ・ とても実のある楽しい時間でした。本当にありがとうございました。
- ・ 学生さんが親切に対応してくださって、とてもありがたかったです。
- ・ 会場案内役の学生の方をはじめ、笑顔の対応はさわやかな気分となり、平素からの学校での指導だと思います。このような研究セミナーを開催していただき、ありがとうございました。
- ・ 学校がきれい。接待がていねい。学食サービスが **GOOD**。
- ・ 学生さんの笑顔での対応で、とても気持ちよく研修会に参加できました。ありがとうございました。
- ・ 前回に続き、大変勉強になりました
- ・ 貴重なお話をたくさん聞けて、とても為になりました。
- ・ 「教育」ということの大事さといったところまで学ぶことができた。「逆の発想」の重要性を学んだ。否定ワードを使わず、ほめる教育。じぶんが教える立場になったとき、このセミナーのことが生かせていけたらと思う。
- ・ 他機関との連携についての事例検討会を企画してください。
- ・ 初めての参加でしたが、大変勉強になりました、ありがとうございました。
- ・ 来年度の研修会にも期待しています。
- ・ 年々、学校関係、学生さんがすばらしい対応をおこなっていただきました。ありがとうございました。
- ・ すべての研修がとても楽しく、色々と勉強になりました。今日のような形が参加しやすく、時間がもっとほしかったです。
- ・ 来年も楽しみです。よろしくお願いいたします。
- ・ また参加したいと思います。
- ・ 学生さんたちの対応もとても素晴らしかった。
- ・ 講座は基本講座も入れてほしい。
- ・ 伊藤先生。行田市へのご支援、誠にありがとうございます。今後とも、何卒よろしくご指導お願いいたします。
- ・ 内容が大変良かったと思います。
- ・ 都合で、講演だけしか出席できませんでした。いただいた資料をよく読ませてもらいたいです。ありがとうございました。
- ・ 大変お世話になりました。
- ・ 企画・運営等ありがとうございました。

## あ と が き

第5回埼玉純真短期大学研究セミナーが皆様のご協力を得まして無事成功裡に終わることができました。誠にありがとうございました。

今回の研究セミナーは、従来の地域の皆さまの実践の提案を基本にした分科会方式から、大学の教職員による公開講座による開催に企画を改めました。日頃の教職員による研究実践を踏まえ、特別支援教育を各教職員が追究し、公開講座として実施しました。まだまだ未熟な実践ですが、現在の時点では私たちにとっては精一杯の内容だったと考えています。このセミナーにおきまして皆さまと共に考えることにより、さらに研究の成果を深めたいとの思いを持った公開講座にすることができました。沢山の地域の皆さまの参加を得て、多くのことを学ぶセミナーになりました。

このセミナーを開催するに当たりましては、埼玉県教育委員会、羽生市教育委員会、加須市教育委員会、行田市教育委員会、熊谷市教育委員会、埼玉県特別支援教育研究会の皆様にご後援を賜り、またご指導をいただき、さらにチラシのご案内等にまでご協力賜り心から感謝申し上げます。

また、近隣市町村から大勢の方の参加を得、盛大に行われましたことに喜びと本学の地域への役割の重要性を改めて感じています。

さらに、全体の講演をいただきました 植草学園短期大学教授 佐藤慎二 様、優れた教育実践をご発表いただきました八潮市立大瀬小学校教諭 柳橋知佳子 様、第2公開講座の 発達支援教室ビリーブ代表・文教大学講師 加藤博之 様、より貴重なご指導を賜りましたことに重ねて御礼申し上げます。

本学の研究につきましては、日々研鑽を重ねているところですが、このセミナーを機会にさらに努力していきたいと考えています。

今後とも特別支援教育の要となって地域に引き続き貢献していきたいと考えているところです。

これからもご支援ご協力の程、よろしくお願いたします。

第5回研究セミナー実行委員長 伊藤道雄

第5回（平成27年度）埼玉純真短期大学研究セミナー報告書

発行日 平成28年 3月31日

編集 埼玉純真短期大学研究セミナー実行委員会

印刷 福田印刷所

発行 埼玉純真短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬430番地

TEL 048-562-0711



埼玉純真短期大学